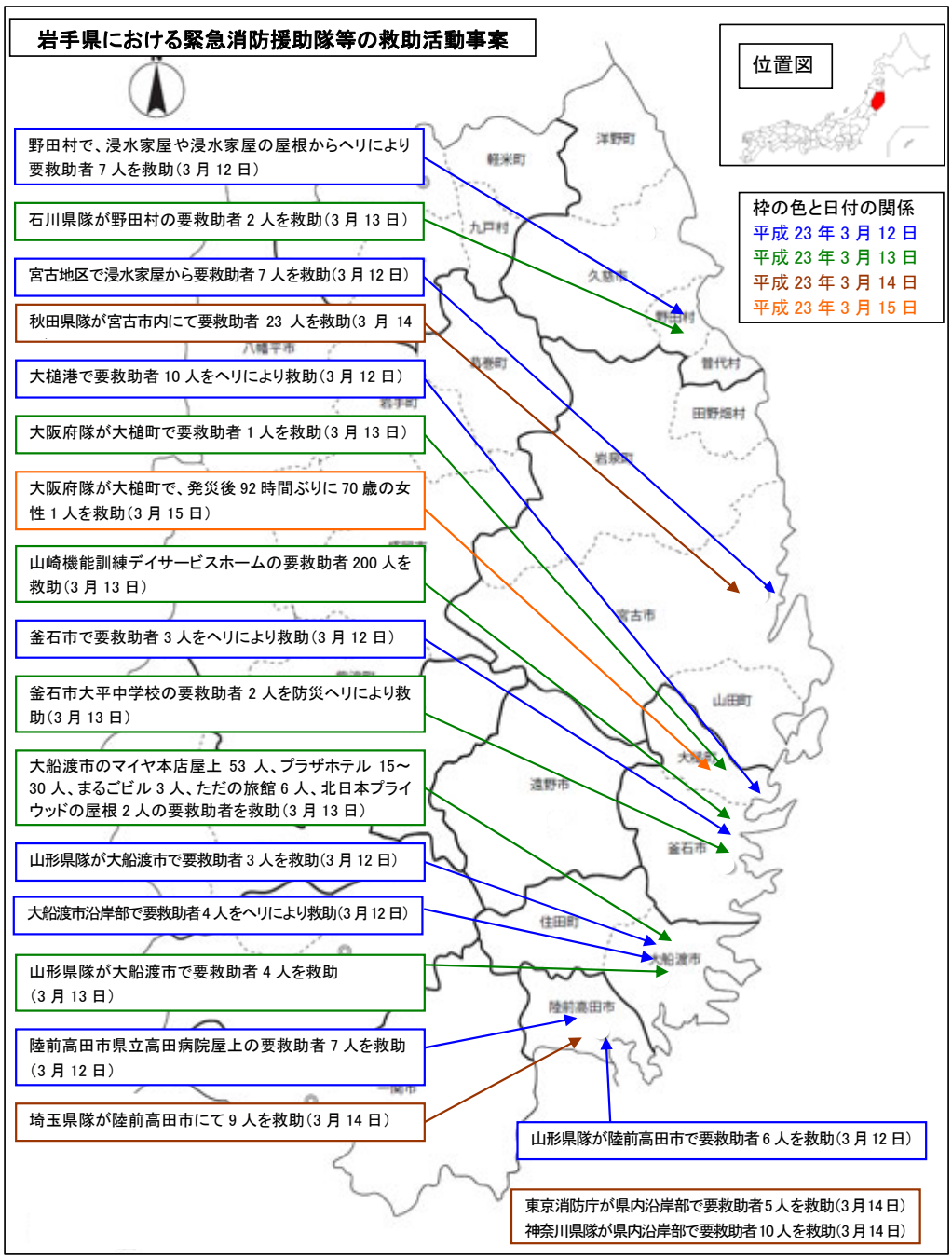
4.6.4 ▶緊急消防援助隊の救助活動事案

緊急消防援助隊の活動報告[1)]より、岩手県、宮城県及び福島県における救助活動事案について図4.6-7から図4.6-9にまとめた。

なお、救助活動事案は日付ごとに図中の枠線及び矢印を色分けした。

1 岩手県

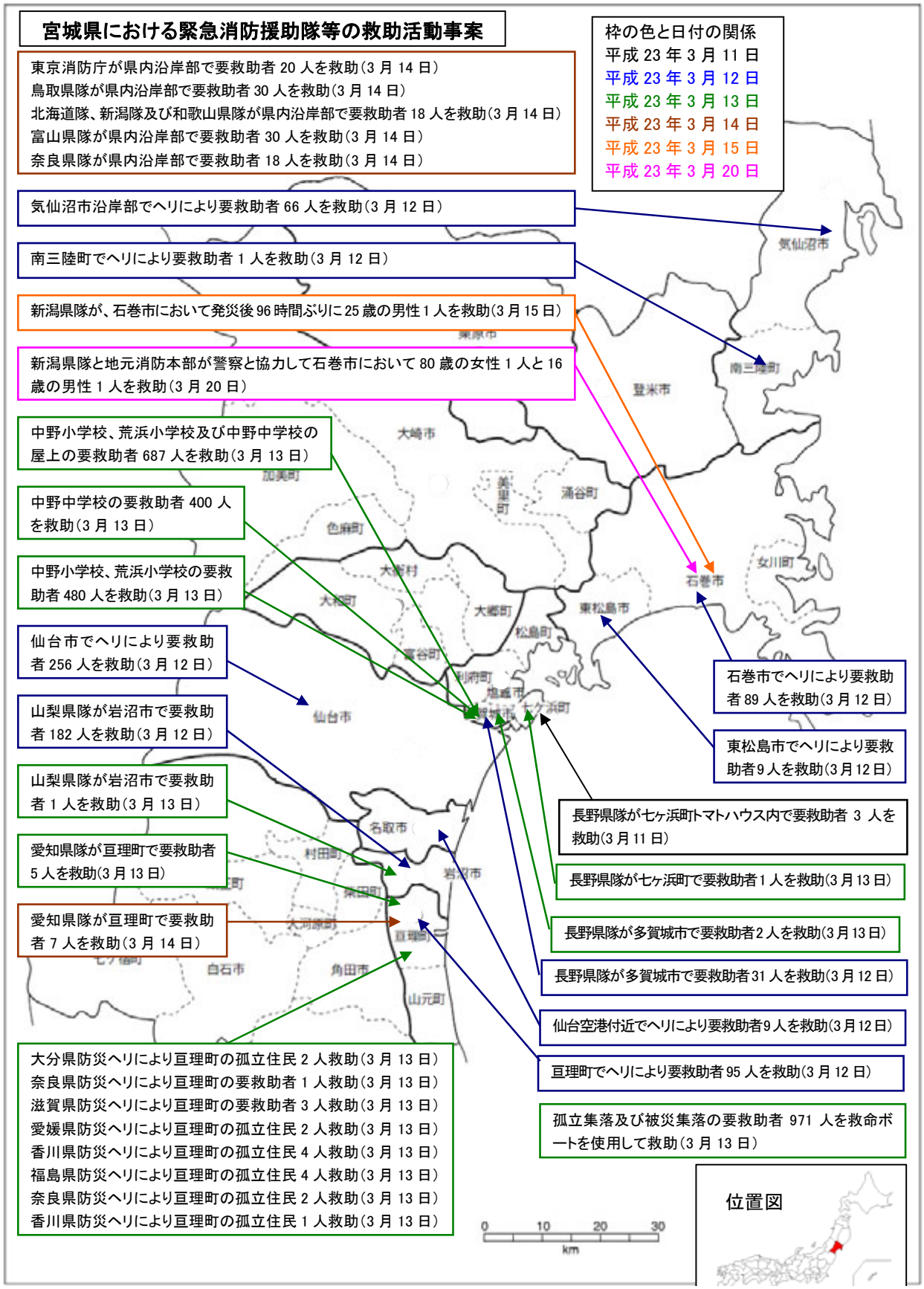
図4.6-7 岩手県における緊急消防援助隊の救助活動事案[2)]＊1



1）消防庁　平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）について（第146報）
http://www.fdma.go.jp/bn/higaihou.html（平成25年1月21日参照）
2）1）を基に作成
＊1 地元消防本部等と協力し救出したものを含む。

2 宮城県

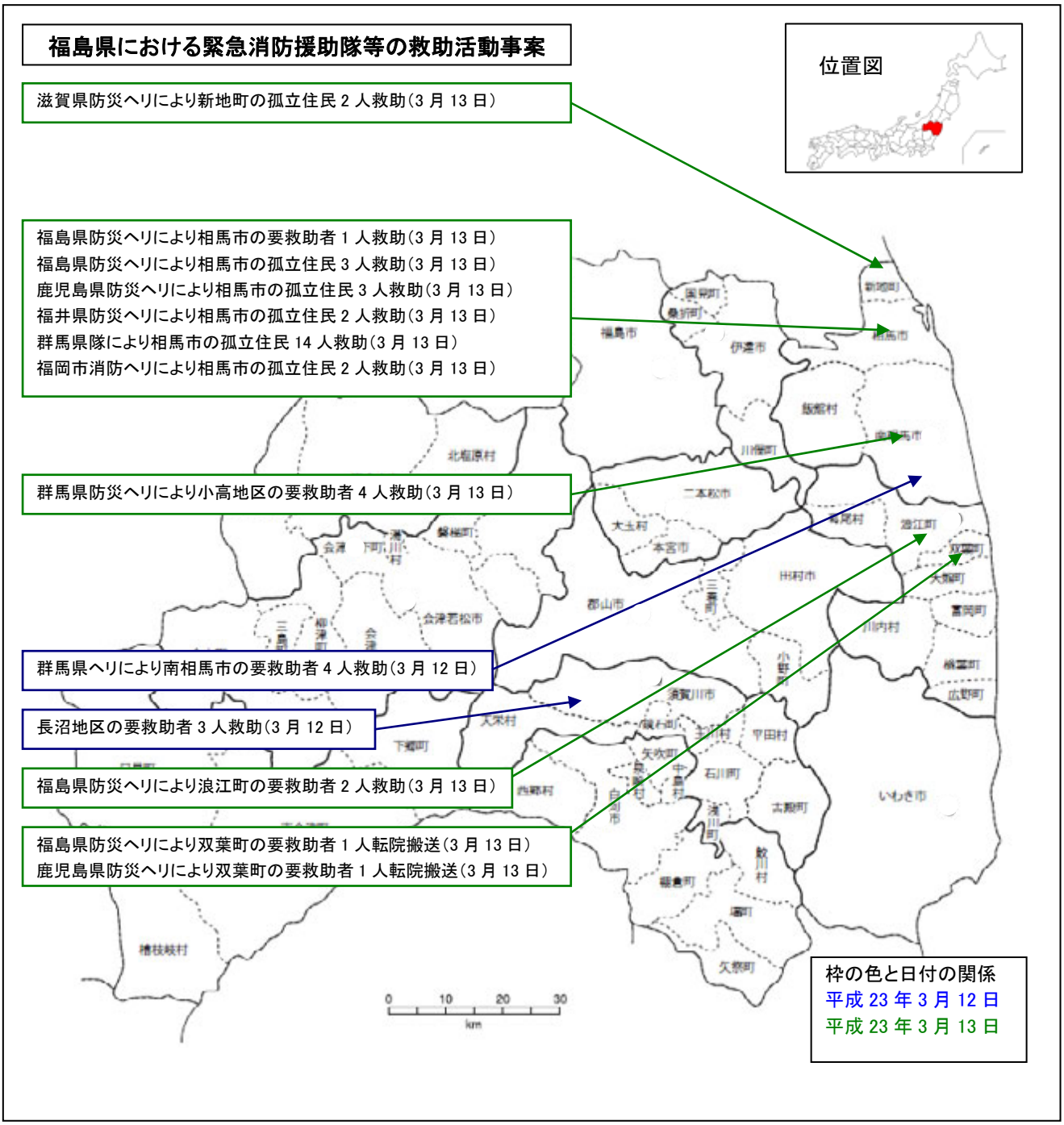
図4.6-8 宮城県における緊急消防援助隊の救助活動事案[1)*1]



1) 消防庁　平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）について（第146報）
http://www.fdma.go.jp/bn/higaihou.html（平成25年1月21日参照）
*1 地元消防本部等と協力し救出したものを含む。

3 福島県

図4.6-9 福島県における緊急消防援助隊の救助活動事案[1)*1]



1) 消防庁　平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）について（第146報）
http://www.fdma.go.jp/bn/higaihou.html（平成25年1月21日参照）
*1 地元消防本部等と協力し救出したものを含む。

4.6.5 ▶緊急消防援助隊の活動状況

1 受入県ごとの緊急消防援助隊の配備状況

(1) 岩手県

岩手県の12消防本部のうち、5消防本部の区域に緊急消防援助隊が応援に入った。岩手県内に応援に入った緊急消防援助隊の活動エリアを図4.6-10に、派遣期間を図4.6-11に示す。

図4.6-10 岩手県内に応援に入った緊急消防援助隊の活動エリア[1)]

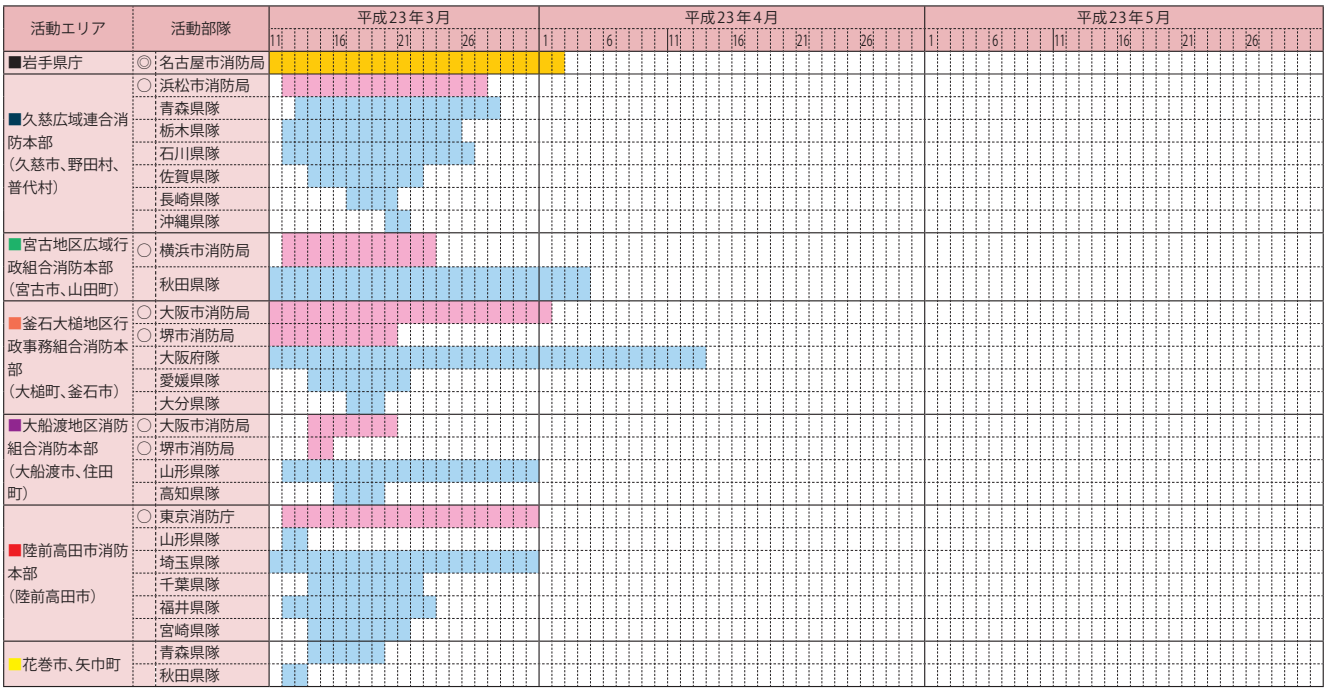
※　青森県隊の救急部隊2隊及び後方支援部隊1隊、秋田県隊の救急部隊2隊及び後方支援部隊2隊は岩手県の指示により、県隊から切り離されて花巻市及び矢巾町にて活動

（注）　下線は、指揮支援部隊長及び指揮支援隊を示す。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月より作成

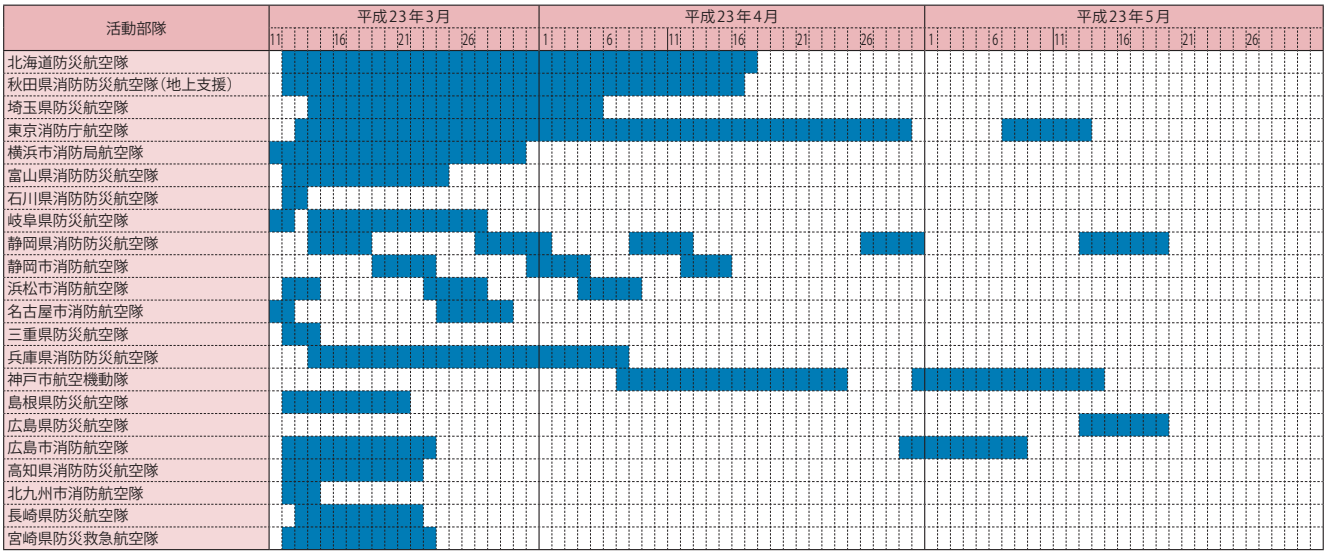
図4.6-11 岩手県内に応援に入った緊急消防援助隊の派遣期間[1)]

【陸上部隊】



◎：指揮支援部隊長　　○：指揮支援隊

【航空部隊】



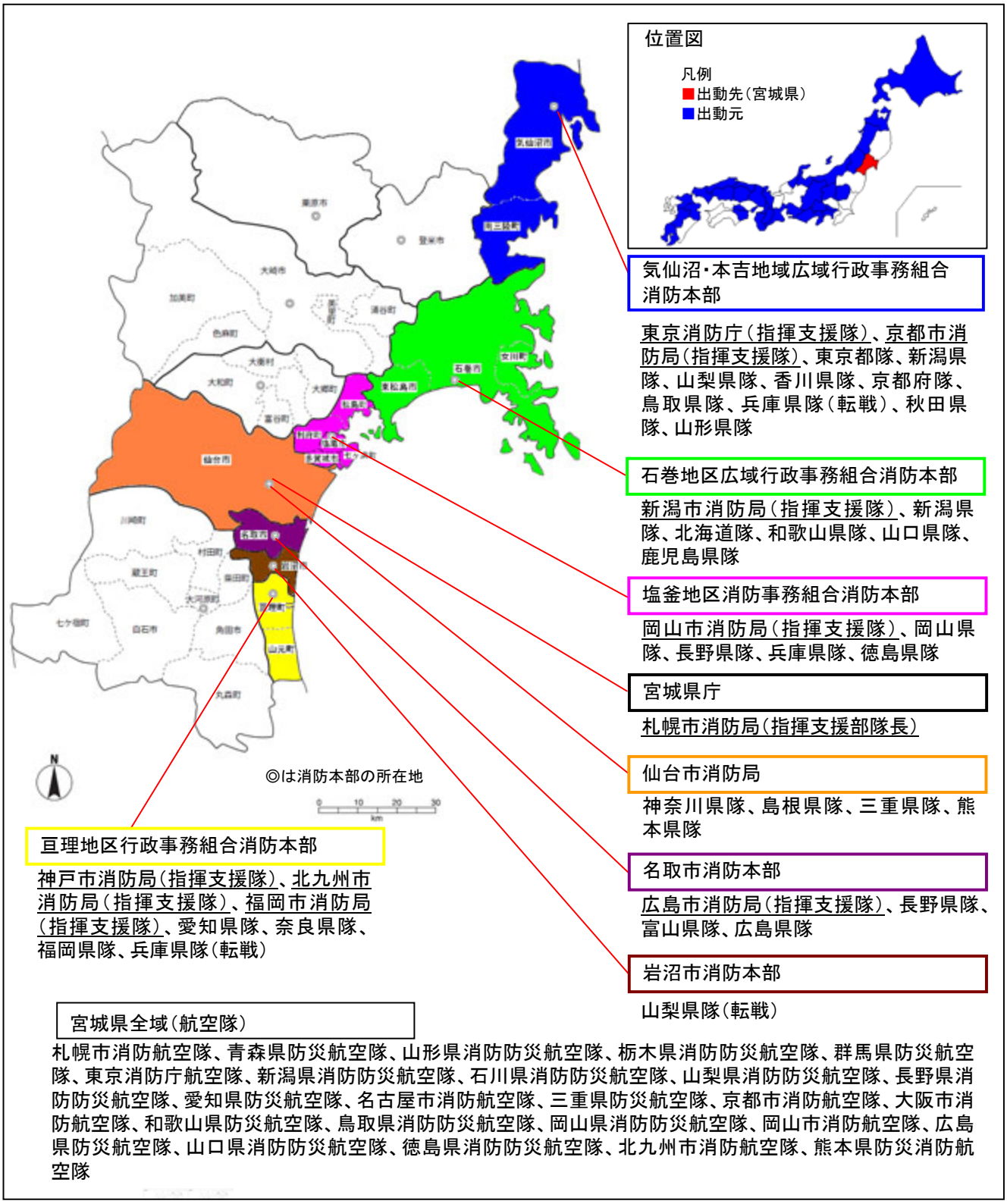
凡例　■指揮支援部隊隊長　■指揮支援隊　■都道府県隊　■航空部隊　の派遣期間を示す。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月より作成

(2) 宮城県

宮城県の12消防本部のうち、7消防本部の区域に緊急消防援助隊が応援に入った。宮城県内に応援に入った緊急消防援助隊の活動エリアを図4.6-12に、派遣期間を図4.6-13に示す。

図4.6-12 宮城県内に応援に入った緊急消防援助隊の活動エリア[1)]

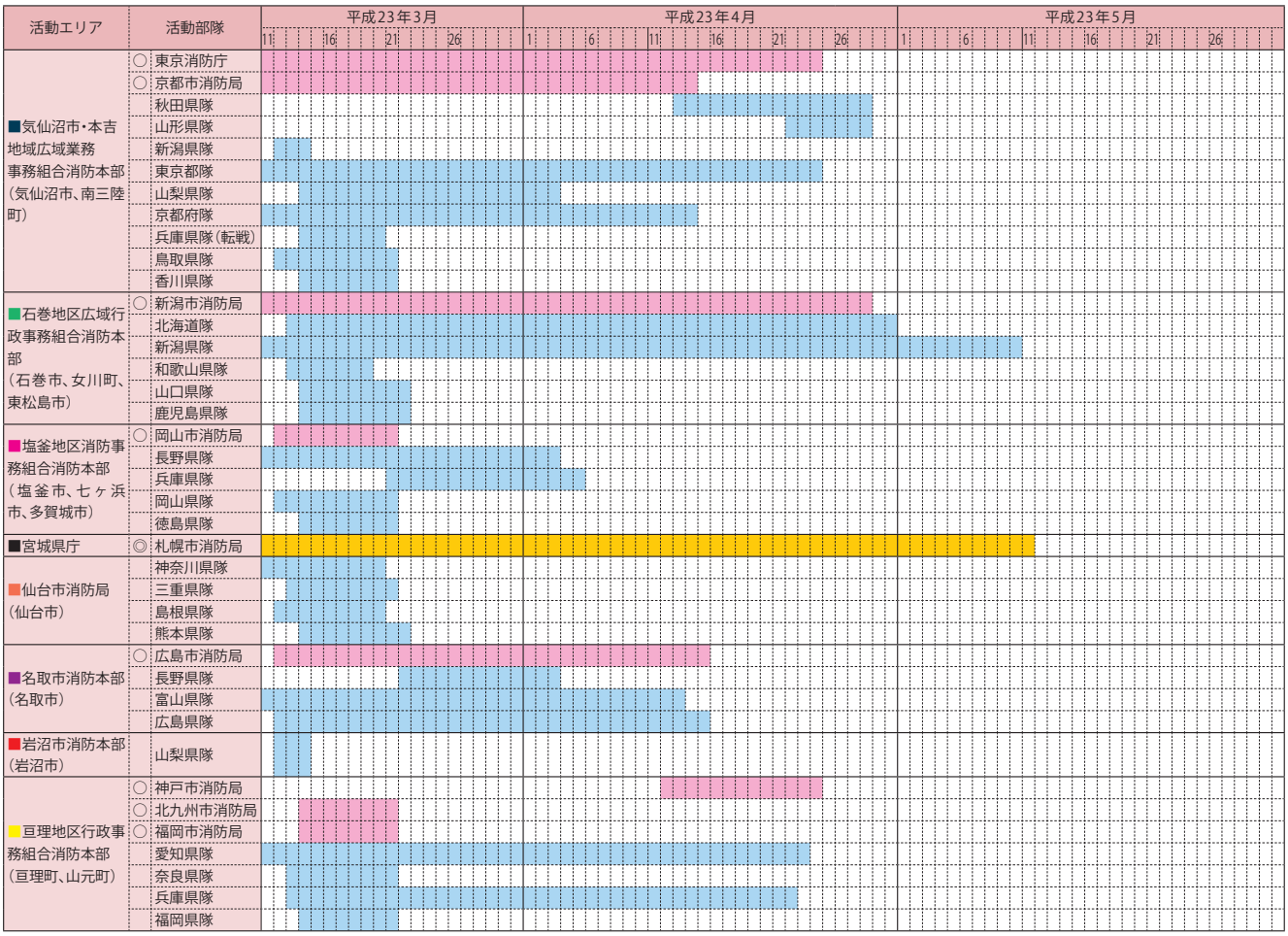


（注） 下線は、指揮支援部隊長及び指揮支援隊を示す。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月より作成

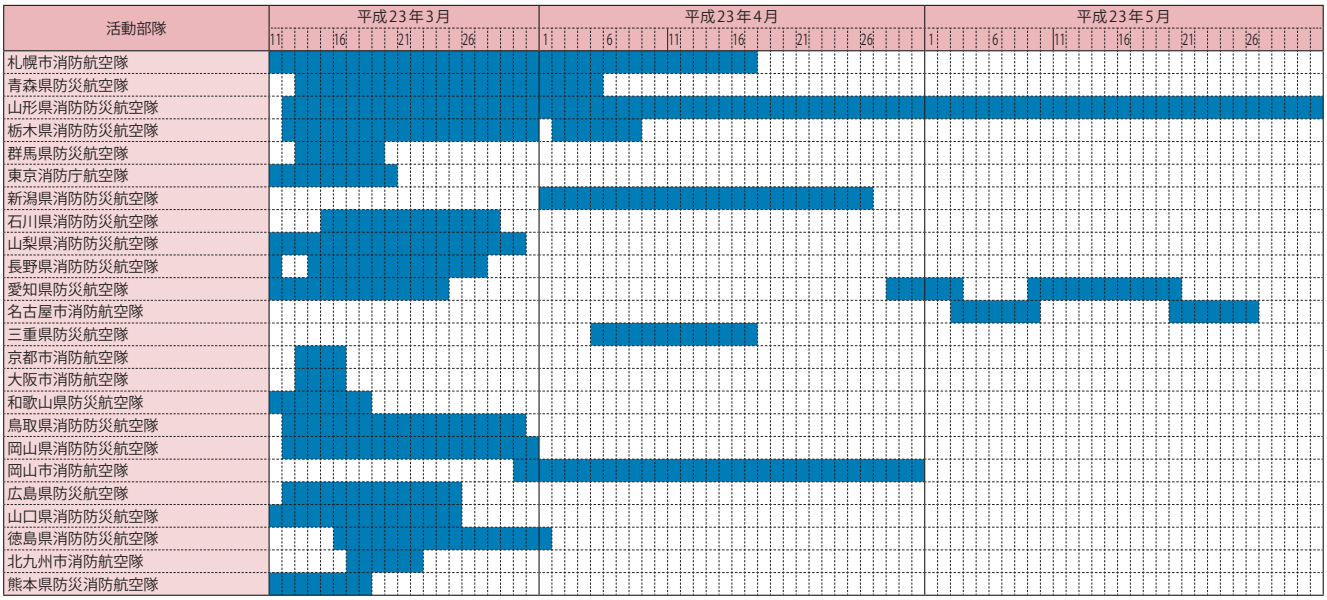
図4.6-13 宮城県内に応援に入った緊急消防援助隊の派遣期間[1)]

【陸上部隊】



◎：指揮支援部隊長　　○：指揮支援隊

【航空部隊】



凡例　■指揮支援部隊隊長　■指揮支援隊　■都道府県隊　■航空部隊　の派遣期間を示す。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月より作成

(3) 福島県

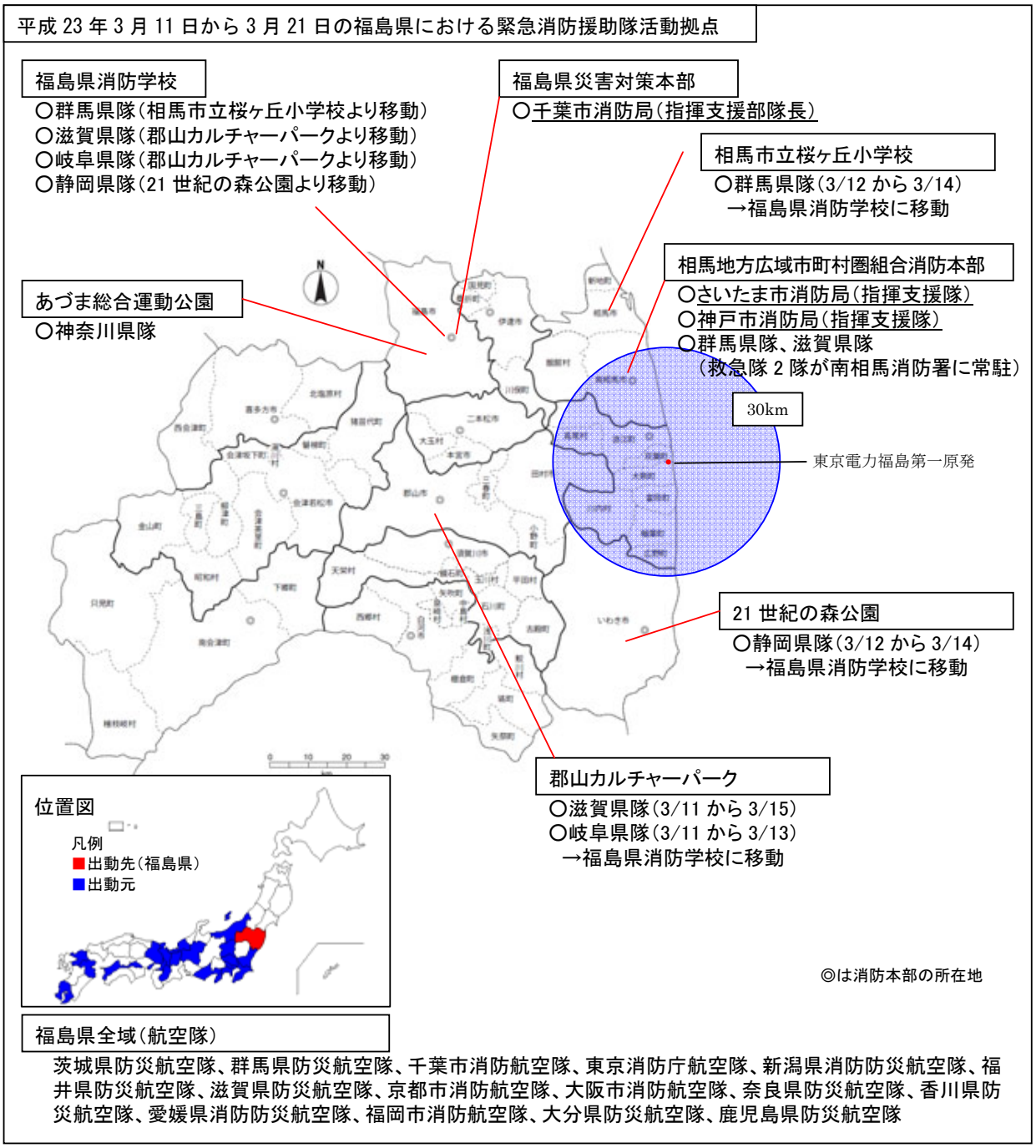
福島県には、主に福島県消防学校及び本宮市総合体育館の2拠点を活動拠点（宿営地・野営地）として、緊急消防援助隊が応援活動を行った。初期段階（平成23年3月11日から3月21日）、2拠点になった期間（平成23年3月22日から4月11日）及び1拠点になって撤退まで（平成23年4月12日から6月6日）の緊急消防援助隊の活動拠点を、図4.6-14から図4.6-16に示す。

また、福島県における緊急消防援助隊の派遣期間を図4.6-17に示す。

なお、双葉地方広域市町村圏組合消防本部管轄内での活動は、東京電力福島第一原発の事故により、同発電所から30km圏内の応援はなかった。

東京電力福島第一原発事故に対する活動については、「4.8 原子力発電所事故に対する活動」に示す。

図4.6-14 福島県内に応援に入った緊急消防援助隊の活動拠点(1)[1)]



（注） 下線は、指揮支援部隊長及び指揮支援隊を示す。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月より作成

図4.6-15 福島県内に応援に入った緊急消防援助隊の活動拠点(2)[1)]

平成 23 年 3 月 22 日から 4 月 11 日の福島県における緊急消防援助隊活動拠点

福島県消防学校

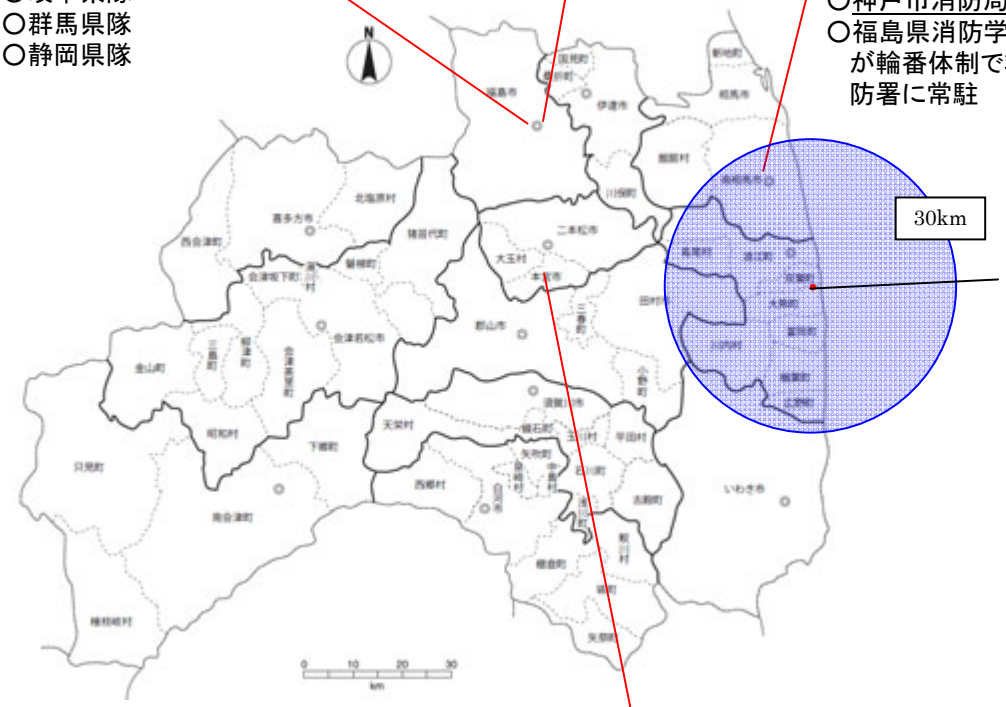
- ○神戸市消防局(指揮支援隊)
- ○茨城県隊
- ○神奈川県隊
- ○滋賀県隊
- ○千葉県隊
- ○岐阜県隊
- ○群馬県隊
- ○静岡県隊

福島県災害対策本部

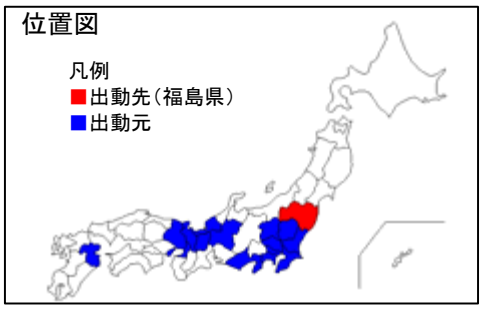
- ○千葉市消防局(指揮支援部隊長)
- ○さいたま市消防局(指揮支援隊)
  (本宮市総合体育館の県隊を調整)

相馬地方広域市町村圏組合消防本部

- ○神戸市消防局(指揮支援隊)
- ○福島県消防学校を拠点とする 7 県隊が輪番体制で救急隊 2 隊を南相馬消防署に常駐



位置図



本宮市総合体育館

- ○東京都隊
- ○栃木県隊
- ○埼玉県隊

◎は消防本部の所在地

福島県全域(航空隊)

茨城県防災航空隊、群馬県防災航空隊、千葉市消防局航空隊、東京消防庁航空隊、川崎市消防航空隊、福井県防災航空隊、滋賀県防災航空隊、京都市消防航空隊、大阪市消防航空隊、広島市消防航空隊、大分県防災航空隊

(注) 下線は、指揮支援部隊長及び指揮支援隊を示す。

1) 全国消防長会 東日本大震災活動記録誌 平成24年3月より作成

図4.6-16 福島県内に応援に入った緊急消防援助隊の活動拠点(3)[1)]

平成 23 年 4 月 12 日から 6 月 6 日の福島県における緊急消防援助隊活動拠点

福島県消防学校

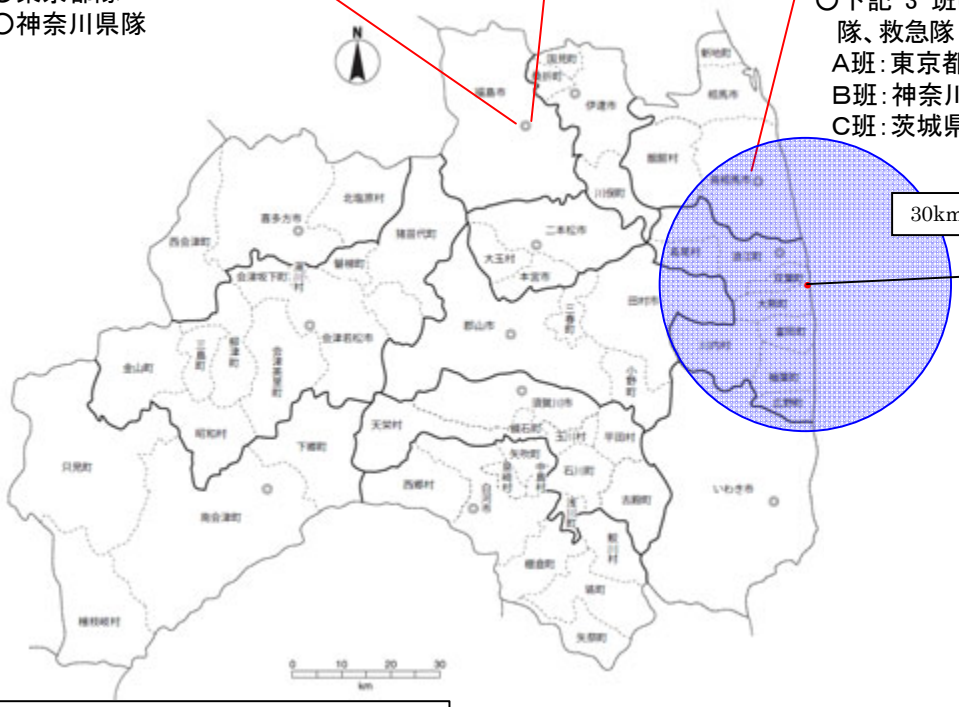
○栃木県隊
○群馬県隊
○茨城県隊
○埼玉県隊
○千葉県隊
○東京都隊
○神奈川県隊

福島県災害対策本部

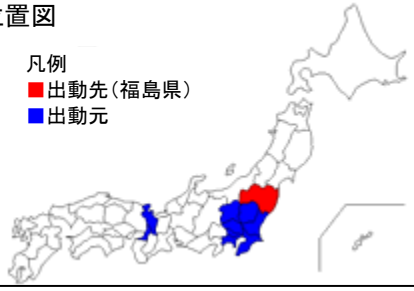
○千葉市消防局（指揮支援部隊長）
○さいたま市消防局（指揮支援隊）
（福島県消防学校の都県隊を調整）

相馬地方広域市町村圏組合消防本部

○下記 3 班により輪番体制で指揮隊 1 隊、救急隊 1 隊を南相馬消防署に常駐
A班：東京都隊、千葉県隊
B班：神奈川県隊、埼玉県隊
C班：茨城県隊、栃木県隊、群馬県隊



位置図



◎は消防本部の所在地

福島県全域（航空隊）

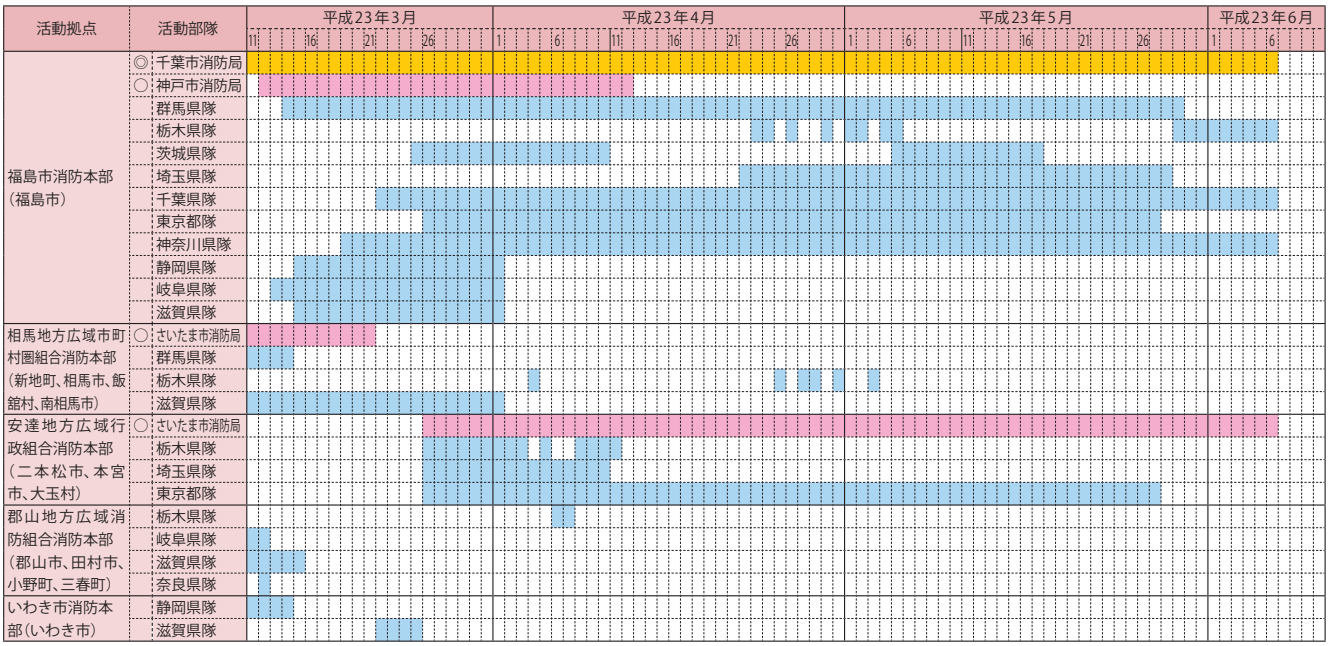
茨城県防災航空隊、千葉市消防局航空隊、川崎市消防航空隊、京都市消防航空隊、大阪市消防航空隊

（注） 下線は、指揮支援部隊長及び指揮支援隊を示す。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月より作成

図4.6-17 福島県内に応援に入った緊急消防援助隊の派遣期間[1)]

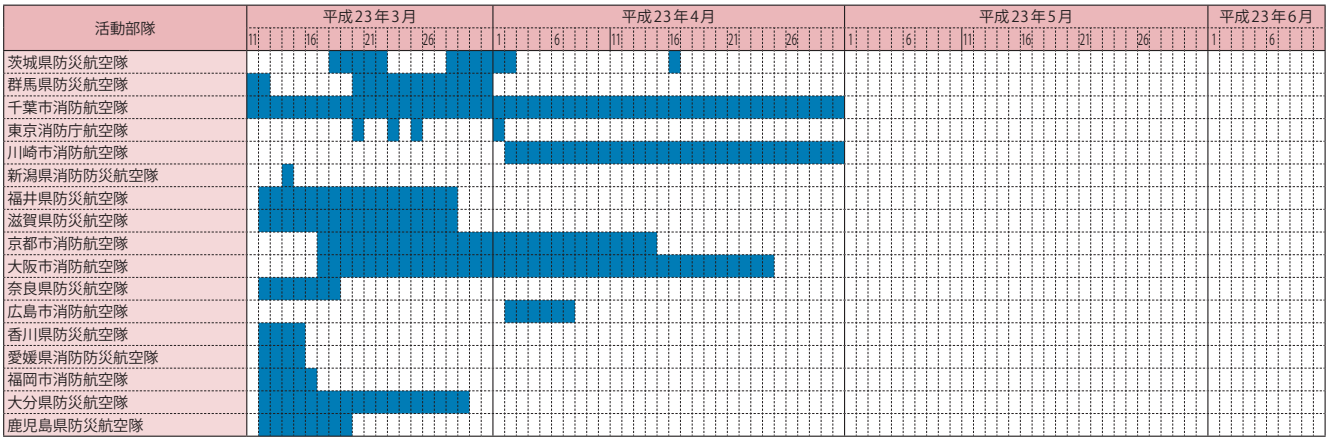
【陸上部隊】



◎：指揮支援部隊長　　○：指揮支援隊

【備考】双葉地方広域市町村圏組合消防本部管轄内での活動は、東京電力福島第一原発の事故により、同発電所から30km圏内の応援は皆無であった。東京電力福島第一原発事故に対する活動については、「4.8 原子力発電所事故に対する活動」を参照のこと。

【航空部隊】



凡例　■指揮支援部隊隊長　■指揮支援隊　■都道府県隊　■航空部隊　の派遣期間を示す。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月及び千葉県消防長会　東日本大震災記録誌　平成24年2月より作成

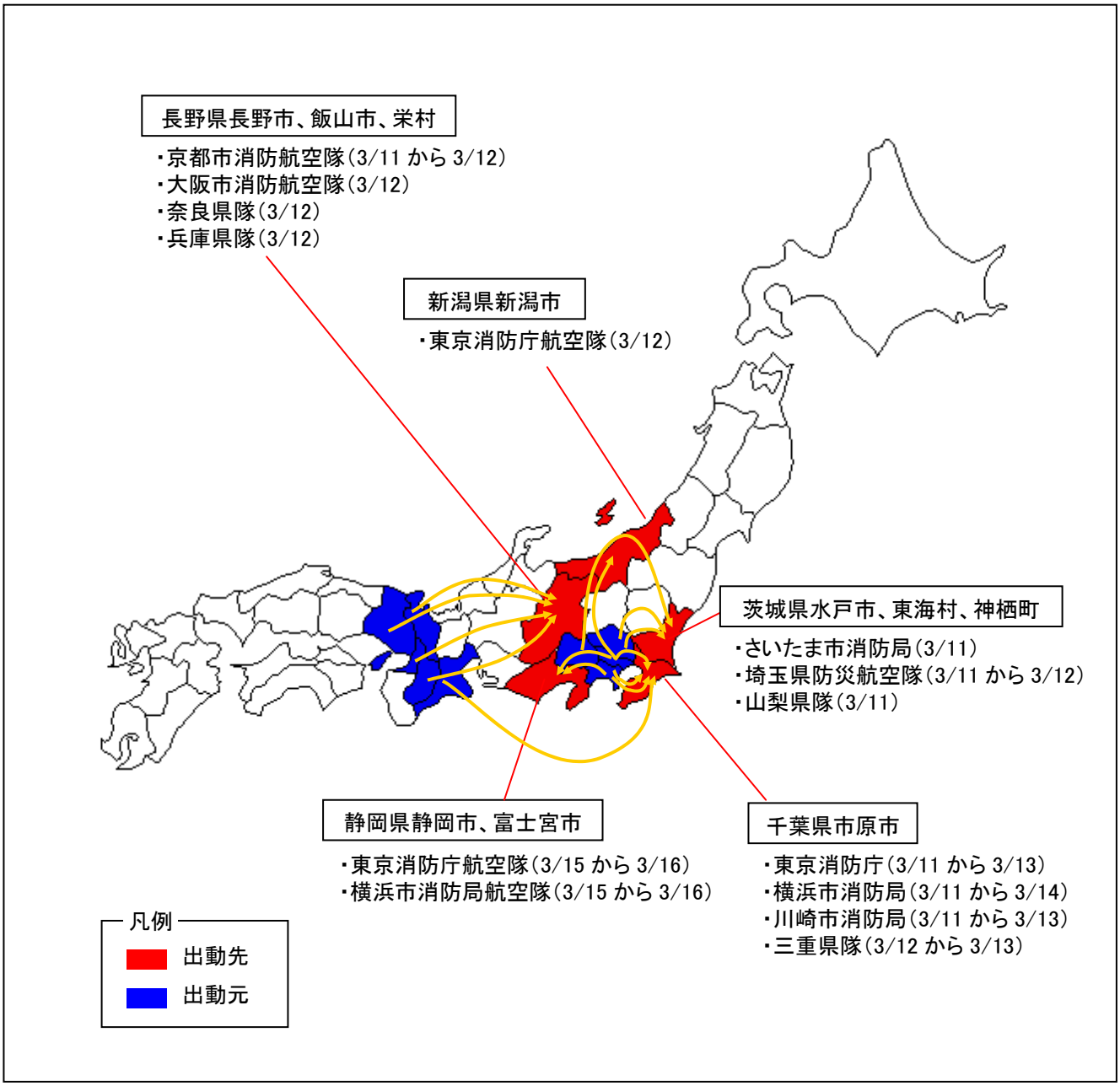
(4) 岩手県・宮城県・福島県以外

岩手県、宮城県及び福島県以外への緊急消防援助隊の出動は以下のとおりである。

岩手県、宮城県及び福島県以外に出動した緊急消防援助隊の出動状況を図4.6-18に示す。

ア　茨城県（3月11日14時46分発生の本震対応）
イ　新潟県（3月12日3時59分発生の地震対応）
ウ　長野県（3月12日3時59分発生の地震対応）
エ　静岡県（3月15日22時31分発生の地震対応）
オ　千葉県（3月11日発災の市原市　石油コンビナート火災対応）

図4.6-18 岩手県、宮城県、福島県以外に出動した緊急消防援助隊の出動状況[1)]



1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月より作成

2 岩手県における陸上部隊の活動

(1) 指揮活動[1)]

岩手県に派遣された指揮支援隊の出動状況は、表4.6-2のとおりである。

表4.6-2 岩手県における指揮支援隊の出動状況[1)]

派遣元	派遣先	派遣期間 始期～終期	派遣部隊・ 隊員数 （延べ）
名古屋市消防局	岩手県庁 （災害対策本部）	3月11日～4月2日 （23日）	29隊138人
東京消防庁	陸前高田市消防本部 （指揮支援本部）	3月12日～3月31日 （20日）	25隊96人
横浜市消防局	宮古地区広域行政組合消防本部 （指揮支援本部）	3月12日～3月23日 （12日）	54隊270人
浜松市消防局	久慈広域連合消防本部 （指揮支援本部）	3月12日～3月27日 （16日）	20隊134人
大阪市消防局	釜石大槌地区行政事務組合消防本部 （指揮支援本部）	3月11日～4月1日 （22日）	37隊152人
堺市消防局	大船渡地区消防組合消防本部 （指揮支援本部）	3月11日～3月20日 （10日）	30隊90人

（注） 名古屋市消防局は指揮支援部隊長

ア 指揮支援部隊長[1)]

岩手県においては、平成23年3月11日から4月2日まで、指揮支援部隊長が所属する名古屋市消防局の指揮支援隊が岩手県庁の災害対策本部に入り、各被災地を統括している指揮支援隊（5隊）と部隊の規模等を随時確認し投入被災地を決定するとともに、代表消防機関と連携し、受入体制及び移動ルートの調整を行った。

本来、基本計画上では、岩手県に災害が発生した場合、指揮支援部隊長は仙台市消防局がその任務にあたることになっていた。しかしながら、東日本大震災では、宮城県も被災地となったため仙台市消防局がその任務を遂行できず、またその代行の札幌市消防局が宮城県の指揮支援部隊長として出動したため、岩手県の指揮支援部隊長には名古屋市消防局がその任務にあたった。

写真4.6-1は、名古屋市消防局指揮支援隊の出発時の様子である。

写真4.6-1 名古屋市消防局指揮支援隊出発時の様子

イ 指揮支援隊[1)]

指揮支援隊として、東京消防庁が岩手県陸前高田市に、横浜市消防局が岩手県宮古市に、浜松市消防局が岩手県久慈市に、大阪市消防局及び堺市消防局が岩手県大槌町・釜石市・大船渡市に派遣され、災害対策本部で情報収集や各府県隊の活動調整等を行った。

(ア) 久慈市・野田村・普代村（岩手県）[1)]

浜松市消防局が平成23年3月12日から3月27日まで指揮支援隊として派遣され、久慈市における青森県隊、栃木県隊、石川県隊、佐賀県隊、長崎県隊、沖縄県隊への指揮支援活動を主な任務とした。

久慈市では、沿岸部の被災現場が多く、現場及び道路状況の確認を優先させるよう指示を行った。活動場所へ部隊を投入するにあたり、出動車両の駐車、待機場所の事前調査を地元消防本部と調整し部隊を投入した。その他、自衛隊や警察との調整、廃材の搬出場所や方法の調整等も行った。

写真4.6-2は、指揮支援本部を立ち上げた久慈広域連合消防本部である。

1）全国消防長会 東日本大震災活動記録誌 平成24年3月

写真4.6-2　指揮支援本部を立ち上げた久慈広域連合消防本部[1)]

写真4.6-3　現場にて指揮活動中の大阪市消防局指揮支援隊[1)]

(イ)　宮古市・山田町（岩手県）[1)]

横浜市消防局が平成23年3月12日から3月23日まで指揮支援隊として派遣され、宮古市、山田町における秋田県隊への指揮支援活動を主な任務とした。

指揮支援隊は、岩手県庁の緊急消防援助隊消防応援活動調整本部（以下「岩手県調整本部」という。）の指揮支援部隊長（名古屋市消防局）と調整を行い、秋田県隊の運用調整、宮古地区広域行政組合消防本部との調整、後方支援部隊との調整、陸上自衛隊等との調整、消防防災ヘリコプターの要請等を行った。

(ウ)　大槌町・釜石市・大船渡市（岩手県）[1)]

大阪市消防局及び堺市消防局が平成23年3月11日から4月1日まで（堺市消防局は3月20日まで）指揮支援隊として派遣され、大船渡市、釜石市における山形県隊、高知県隊、大分県隊、愛媛県隊への指揮支援活動を主な任務とした（写真4.6-3）。

各関係機関と調整した内容として、①被害状況等の現状報告、②緊急消防援助隊が行う重点検索範囲の選定（大船渡市中心部及び商業地（大船渡・盛地区、下船渡地区）を担当）、③今後の活動方針の決定などであった。

また、各国救助部隊の受入調整も行った。

(エ)　陸前高田市（岩手県）[1)]

東京消防庁が平成23年3月12日から3月31日まで指揮支援隊として派遣され、陸前高田市における山形県隊、埼玉県隊、千葉県隊、福井県隊、宮崎県隊への指揮支援活動を主な任務とした。

陸前高田市庁舎や消防本部庁舎が津波の被害で使用不能となったため陸前高田市内の高台にある学校給食センターに市災害対策本部が設置されていた。

指揮支援隊は、岩手県調整本部の指揮支援部隊長（名古屋市消防局）と情報連絡体制を確立した。

(2)　消火活動

ア　宮古市・山田町（岩手県）[1)]

平成23年3月11日から4月4 日まで、緊急消防援助隊が派遣された。県隊として秋田県隊が応援活動を実施した。

山田地区と田老地区では、大規模な火災が発生した。山田地区では津波で流出した家屋のがれきから出火し、周囲の建物等に延焼拡大したため、秋田県隊、地元消防隊、消防団が連携して消火活動を実施した（写真4.6-4）。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月

写真4.6-4　岩手県山田町長崎地区での消火活動（秋田県隊）[1)]

イ　大槌町・釜石市・大船渡市（岩手県）[2)]

平成23年3月11日から4月13日まで、緊急消防援助隊が派遣された。府県隊として大阪府隊、山形県隊、高知県隊、大分県隊、愛媛県隊が消火活動を実施した。3月14日、15日には林野火災があり、大阪府隊が消火活動を実施した。

(ア)　林野火災への対応[2)]

〈事例1[2)]〉

平成23年3月14日に岩手県釜石市片岸町付近で林野火災があった。3時25分に釜石大槌地区行政事務組合消防本部より遠野市消防本部を通じて林野火災への応援要請を受け、大阪府隊の消火部隊6隊が出場した。火は山裾から山頂にかけて500m程度の帯状に広がっており、付近の集落に延焼危険があった。消火にあたっては可搬式ポンプ2台を使用、海水をタンク車へ送水して放水活動を行った。

火災は14時30分に鎮圧された。

〈事例2[2)]〉

平成23年3月14日15時45分に岩手県大槌町桜木町付近の林野火災に、大阪府隊の消火部隊3隊が出場した。山手では広範囲にわたり火煙が確認された。桜木町保健福祉会館の北側住宅に延焼危険があったため、消火部隊1隊が増強出場した。18時40分に火災は鎮圧された。

〈事例3[2)]〉

平成23年3月15日に岩手県釜石市鵜住居町付近で林野火災があり、7時00分に名古屋市消防局指揮支援部隊長からの指令により大阪府隊の消火部隊10隊が出場した。しかし、延焼拡大する危険性はないという現地指揮者の判断で、林野火災には2隊が対応し、8隊は捜索活動を行った。

火災は降り続いた雨により自然鎮火した。

〈事例4[2)]〉

平成23年3月15日に岩手県大槌町小鎚付近で林野火災があり（写真4.6-5）、10時10分に釜石大槌地区行政事務組合消防本部からの要請により大阪府隊の救助部隊1隊及び消火部隊2隊が出場した。山の斜面の火災のため、消火栓等の水利が使用できず、可搬式ポンプを利用して河川からポンプ車へ送水して消火活動を行った。降雪のため消火活動を12時に終了した。林野火災は積雪に伴い自然鎮火した。

写真4.6-5　大槌町小鎚付近の林野火災[2)]

(3)　検索・救助活動

ア　久慈市・野田村・普代村（岩手県）[2)]

平成23年3月12日から3月28日まで、緊急消防援助隊が派遣された。県隊として青森県隊、栃木県隊、石川県隊、佐賀県隊、長崎県隊、沖縄県隊が応援活動を実施した。救助部隊は消火部隊と連携して倒壊家屋・がれき下からの検索活動を実施した（写真4.6-6）。

1）消防庁　東日本大震災に伴う緊急消防援助隊北海道東北ブロック活動検証会議報告書　平成24年2月
http://www.pref.niigata.lg.jp/shobo/1329685245755.html（平成25年1月21日参照）
2）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月

写真4.6-6　倒壊建物・がれき下等の人命検索を行う青森県隊（岩手県久慈市夏井町国家石油備蓄基地周辺）[1)]

イ　宮古市・山田町（岩手県）[1)2)]

平成23年3月11日から3月23日まで、緊急消防援助隊が派遣された。指揮支援隊として横浜市消防局が、県隊として秋田県隊が応援活動を実施した。岩手県山田町での座屈建物の検索活動（3月13日）や岩手県宮古市で車両からの救助活動（3月17日）等を実施した（写真4.6-7）。

写真4.6-7　3月17日　岩手県宮古市での車両からの救助（秋田県隊）[2)]

ウ　大槌町・釜石市・大船渡市（岩手県）[1)]

平成23年3月11日から4月13日まで、緊急消防援助隊が派遣された。府県隊として大阪府隊、山形県隊、高知県隊、大分県隊、愛媛県隊が消火活動及び検索活動を実施した。救助部隊は、倒壊家屋・がれき下からの検索活動を実施した。主に大阪府隊は大槌町・釜石市を、山形県隊は大船渡市を、愛媛県隊は釜石市を、高知県隊は大船渡市を（写真4.6-8）、大分県隊は釜石市を検索活動した。「県下一斉捜索ローラー作戦」として、消防、自衛隊、警察等の関係機関が協力して検索活動を実施した。

写真4.6-9に、3月18日の大船渡市におけるがれきの中での山形県隊の救助活動状況を示す。

写真4.6-8　大船渡町字新田で検索活動を行う高知県隊員[1)]

写真4.6-9　がれきの中での救助活動を行う山形県隊員（岩手県大船渡市）[1)]

エ　陸前高田市（岩手県）[1)]

平成23年3月11日から3月31日まで、緊急消防援助隊が派遣された。県隊として山形県隊、埼玉県隊、千葉県隊、福井県隊、宮崎県隊が活動した。ローラー作戦にて、がれき上及び倒壊家屋での検索救助活動を実施した。また、横転車両内の要救助者を大型油圧救助器具でドアを開放して救出、建物内

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
2）消防庁　東日本大震災に伴う緊急消防援助隊北海道東北ブロック活動検証会議報告書　平成24年2月
http://www.pref.niigata.lg.jp/shobo/1329685245755.html（平成25年1月21日参照）

のがれきを除去し画像探索機で確認等を実施した（写真4.6-10）。

なお、初期の活動では、人員のみでの検索活動であったが、中期より重機を活用して検索活動を実施した。

写真4.6-10　画像探索機を駆使して捜索活動を行う宮崎県隊員（陸前高田市）[1)]

(4)　救急活動

ア　久慈市・野田村・普代村（岩手県）[1)]

平成23年3月12日から3月28日まで、緊急消防援助隊が派遣された。県隊として青森県隊、栃木県隊、石川県隊、佐賀県隊、長崎県隊、沖縄県隊が活動した。指揮支援隊、消火部隊、救助部隊とともに検索活動担当地区に出向、又は久慈広域連合消防本部庁舎や役場に待機し、救急搬送要請に応じて出動した。

イ　宮古市・山田町（岩手県）[1)2)]

平成23年3月11日から4月4日まで、緊急消防援助隊が派遣された。県隊として秋田県隊が、宮古地区広域行政組合消防本部、岩手県山田町飯岡山田南小学校（写真4.6-11）、グリーンピア田老を拠点に救急活動を実施した。

写真4.6-11　自衛隊ヘリからの傷病者を引き継ぐ秋田県隊（岩手県山田町飯岡山田南小学校）[1)]

ウ　大槌町・釜石市・大船渡市（岩手県）[1)]

平成23年3月11日から4月13日まで、緊急消防援助隊が派遣された。府県隊として大阪府隊、山形県隊、高知県隊、大分県隊、愛媛県隊が派遣され、急病人や負傷者等への救急活動を実施した。必要に応じ、県外へ転院搬送も行った。また、遺体搬送についても協力要請に応じて搬送を行った。

エ　陸前高田市（岩手県）[1)]

平成23年3月11日から3月31日まで、緊急消防援助隊が派遣された。県隊として山形県隊、埼玉県隊、千葉県隊、福井県隊（写真4.6-12）、宮崎県隊が活動を実施した。陸前高田市に派遣された救急部隊は、野営地である陸前高田市滝の里工業団地において待機、救急要請により現地消防本部の職員を同乗させ要請現場に向かい、患者を収容し医療機関まで搬送した。主な搬送先としては、岩手県立大船渡病院（岩手県）であった。

なお、各県救急部隊へ陸前高田市消防本部職員を1人配置し、現場と病院のルート案内を実施した。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
2）消防庁　東日本大震災に伴う緊急消防援助隊北海道東北ブロック活動検証会議報告書　平成24年2月
http://www.pref.niigata.lg.jp/shobo/1329685245755.html（平成25年1月21日参照）

写真4.6-12　傷病者を救急車内へ収容する福井県隊救急隊員（岩手県陸前高田市米崎地区）[1)]

オ　花巻市・矢巾町（岩手県）[1)]

秋田県隊救急部隊2隊、後方支援部隊2隊及び青森県隊救急部隊2隊、後方支援部隊1隊は、花巻空港・岩手県消防学校に待機して、ヘリコプター搬送患者への救急活動を行った（写真4.6-13）。

写真4.6-13　ドクターヘリで搬送されてきた傷病者を救急車へ収容する秋田県隊救急隊員（岩手県花巻市花巻空港）[1)]

(5)　後方支援活動[1)]

ア　久慈市・野田村・普代村（岩手県）[1)]

青森県隊、栃木県隊、石川県隊、佐賀県隊、長崎県隊及び沖縄県隊が、久慈市・野田村・普代村を拠点として活動した。

活動拠点において、各消防本部（局）派遣隊員の朝食及び夕食の提供は各消防本部に派遣されている後方支援部隊が対応した。

昼食の提供は、活動場所が野営地と離れていたため、後方支援部隊が活動場所付近へ赴き、県後方支援部隊として活動全隊員に食事の提供を行った。

久慈市・野田村・普代村にて活動した各県隊の野営地は、栃木県隊及び石川県隊が久慈市民体育館で、他の県隊は以下のとおりである。

青森県隊：旧長内中学校、久慈市防災センター
佐賀県隊：久慈市柔剣道場
長崎県隊：久慈市柔剣道場（写真4.6-14）
沖縄県隊：旧長内中学校

写真4.6-14　久慈市柔剣道場で宿営する長崎県隊[1)]

イ　宮古市・山田町（岩手県）[1)]

秋田県隊は、宮古市北部の旧田老町及び宮古市南部に位置する山田町の2手に分かれて、活動を実施し、それぞれ、グリーンピア田老及び山田南小学校を野営地とした。最終的には、宮古地区広域行政組合消防本部3階体育室に宿営所を移動した。

ウ　大槌町・釜石市・大船渡市（岩手県）[1)]

大阪府隊、山形県隊及び高知県隊が、大槌町・釜石市・大船渡市を拠点として活動した。

後方支援部隊が野営準備や隊員の食料準備、野営地のトイレ清掃等の環境整備を行った。また、情報収集、隊員の健康管理等、多岐にわたって各部隊の活動を支えた。

大槌町・釜石市・大船渡市にて活動した各府県隊の野営地は、以下のとおりである。

大阪府隊：遠野運動公園（写真4.6-15）
　　→岩手県立遠野緑峰高校体育館
山形県隊：岩手県立大船渡東高校
高知県隊：岩手県立大船渡東高校
愛媛県隊：岩手県遠野市綾織地区センター
大分県隊：岩手県遠野市綾織地区センター

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月

冬季における東北地方での野営は隊員に対し、相当の負担となるため、大阪府隊の後方支援部隊長は遠野市災害対策本部及び後方支援本部と調整を行い、屋内での待機が可能な岩手県立遠野緑峰高校体育館に拠点を移設した。

写真4.6-15　野営地の状況（遠野運動公園）[1)]

エ　陸前高田市（岩手県）[1)]

山形県隊、埼玉県隊、千葉県隊、福井県隊及び宮崎県隊が、陸前高田市を拠点として活動した。

野営地及び県隊の活動区域において資材の運搬や給食活動等の後方支援活動を実施した。

埼玉県隊は、レトルト食品を県隊単位で一括湯煎し、食器はビニールやラップを被せることで再利用するなど、燃料及びごみの減量を図るなどの工夫をした。

陸前高田市にて活動した各県隊の野営地は、山形県隊、千葉県隊及び福井県隊[2)]が陸前高田市滝の里工業団地で、他の県隊は以下のとおりである。

埼玉県隊：高速道路IC建設予定地

宮崎県隊：陸前高田市「オートキャンプモビリア」

写真4.6-16は福井県隊の野営実施状況である。

写真4.6-16　福井県隊の野営実施状況（陸前高田市）[1)]

3　宮城県における陸上部隊の活動

(1)　指揮活動[1)]

宮城県に派遣された指揮支援隊の出動状況は、表4.6-3のとおりである。

表4.6-3　宮城県における指揮支援隊の出動状況[1)]

派遣元	派遣先	派遣期間 始期～終期	派遣部隊・ 隊員数 （延べ）
札幌市消防局	宮城県庁（災害対策本部）	3月11日～5月11日 （62日）	144隊574人
新潟市消防局	石巻地区広域行政事務組合消防本部（指揮支援本部）	3月11日～4月28日 （49日）	73隊387人
東京消防庁	気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部 （指揮支援本部）	3月11日～4月24日 （45日）	56隊221人
京都市消防局	気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部 （指揮支援本部）	3月11日～4月14日 （35日）	52隊208人
神戸市消防局	亘理地区行政事務組合消防本部（指揮支援本部）	3月14日～4月23日 （40日）	19隊76人
岡山市消防局	塩釜地区消防事務組合消防本部（指揮支援本部）	3月12日～3月21日 （10日）	10隊40人
広島市消防局	名取市消防本部 （指揮支援本部）	3月12日～4月15日 （35日）	11隊43人
北九州市消防局	亘理地区行政事務組合消防本部（指揮支援本部）	3月14日～3月21日 （8日）	8隊32人
福岡市消防局	亘理地区行政事務組合消防本部（指揮支援本部）	3月14日～3月21日 （8日）	8隊48人

（注）　札幌市消防局は指揮支援部隊長

ア　指揮支援部隊長[1)]

宮城県においては、指揮支援部隊長が所属する札幌市消防局の指揮支援隊が宮城県庁の災害対策本部に入り、各被災地を統括している指揮支援隊（8隊）と部隊の規模等を随時確認し投入被災地を決定するとともに、代表消防機関と連携し、受入体制及び移

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
2）越前市　緊急消防援助隊　活動情報（東北地方太平洋沖地震）
http://www.city.echizen.lg.jp/office/140/010/ennjyotaikatidou.html（平成25年1月21日参照）

動ルートの調整を行った。

本来、基本計画上では、宮城県に災害が発生した場合、指揮支援部隊長として仙台市消防局がその任務にあたることになっていた。しかしながら東日本大震災では、仙台市が被災したため仙台市消防局がその任務につくことができず、その代行の札幌市消防局が宮城県の指揮支援部隊長として出動した（写真4.6-17）。

写真4.6-17　出発する札幌市消防局指揮支援隊と航空部隊[1)]

イ　指揮支援隊[1)]

指揮支援隊として、東京消防庁が宮城県気仙沼市に、京都市消防局が宮城県南三陸町に、新潟市消防局が宮城県石巻市に、岡山市消防局が宮城県塩竈市・七ヶ浜町・多賀城市に、広島市消防局が名取市に、神戸市消防局・北九州市消防局・福岡市消防局が宮城県山元町に派遣され、災害対策本部で情報収集や各府県隊の活動調整等を行った。

(ア)　気仙沼市（宮城県）[1)]

東京消防庁が平成23年3月11日から4月24日まで指揮支援隊として派遣され、気仙沼市における山形県隊、新潟県隊、東京都隊、山梨県隊、香川県隊への指揮支援活動を主な任務とした。

気仙沼市災害対策本部は、市役所庁舎被災のため気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部に設置され、消防本部と緊密な連携を行った。

また、宮城県庁の県災害対策本部に設置された緊急消防援助隊消防応援活動調整本部（以下「宮城県調整本部」という。）内の指揮支援部隊長である札幌市消防局職員とは衛星携帯電話等で交互に連絡体制をとった。気仙沼市内で活動する都県隊に対しては、災害現場で直接、口頭で指揮して相互に情報交換を行った。写真4.6-18は宮城県庁災害対策本部で指揮支援隊が活動している様子である。

派遣隊支援本部は東京消防庁本部庁舎に設置され、気仙沼市に派遣された隊との情報連絡のため、通信工作車の派遣指示を行うとともに、山間地用の衛星携帯電話を指揮支援隊に配置した。

また、独立行政法人情報通信研究機構の協力を得て、研究用の超高速インターネット衛星「きずな」を活用したテレビ会議システムを活用し、通信体制を強化した。

写真4.6-18　指揮支援隊が宮城県庁災害対策本部にて活動中（宮城県庁）[1)]

(イ)　南三陸町（宮城県）[1)]

京都市消防局が平成23年3月11日から4月14日まで指揮支援隊として派遣され、南三陸町における秋田県隊、京都府隊、兵庫県隊、鳥取県隊への指揮支援活動を主な任務とした。

指揮支援隊が南三陸町に到着した時点では、南三陸町災害対策本部が未設置であり、かつ、災害活動調整会議の開催の見通しがつかない状況であった。そこで、隣接消防本部（登米市、大崎地域広域行政事務組合、栗原市各消防本部）と活動調整の場をもち、翌早朝より先遣隊を南三陸町志津川地区に出動させることで活動方針を決定し、早期に活動を開始した。

南三陸町災害対策本部の立ち上げと関係機関（消防機関、警察、自衛隊、町長部局）による活動調整会議を開催するために、南三陸町長及び南三陸消防署長と調整を行った。

南三陸町に進出した緊急消防援助隊（京都府隊、

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月

鳥取県隊、兵庫県隊）に対し活動調整及び支援活動を行い、南三陸町全域にわたって活動を展開した。写真4.6-19は、南三陸町の前線指揮所で各部隊に指示を出している様子である。

また、活動調整会議により、自衛隊及び警察機関との活動範囲等の活動調整も行い、連携した活動を行った。

南三陸町に到着した各国救助隊（スイス、オーストラリア隊等）が南三陸町で活動できるよう、活動調整会議において調整を行い、緊急消防援助隊（京都府隊、鳥取県隊）との連携活動を行った。

写真4.6-19　前線指揮所で各部隊に指示（宮城県南三陸町）[1)]

㈠　石巻市・女川町・東松島市（宮城県）[1)]

新潟市消防局が平成23年3月11日から4月28日まで指揮支援隊として派遣され、石巻市・女川町・東松島市における北海道隊、新潟県隊、和歌山県隊、山口県隊、鹿児島県隊への指揮支援活動を主な任務とした。

新潟市指揮支援隊は、石巻地区広域行政事務組合消防本部に指揮支援本部を設置し、情報収集や各関係機関との調整を図るとともに、石巻地区広域行政事務組合消防長の指揮の下、北海道隊、山口県隊、和歌山県隊、鹿児島県隊、新潟県隊の活動管理を実施した。時間経過とともに被災状況が予想以上に広域的であることが明らかとなり、石巻地区広域行政事務組合消防長と協議のうえ、緊急消防援助隊の部隊配置を行った。

石巻市災害対策本部が機能し始めてからは、自衛隊、警察との情報交換により決定された緊急消防援助隊の活動方針や活動地区を各道県隊に下命した。写真4.6-20は、新潟市消防局指揮支援隊が石巻地区広域行政事務組合消防本部に到着した直後の被害状況確認の様子である。

写真4.6-20　到着直後の被害状況確認（宮城県石巻市）[1)]

㈡　塩竈市・多賀城市・七ヶ浜町（宮城県）[1)]

岡山市消防局が平成23年3月12日から3月21日まで指揮支援隊として派遣され、塩竈市・多賀城市・七ヶ浜町における長野県隊、兵庫県隊、岡山県隊、徳島県隊への指揮支援活動を主な任務とした。

被災地到着時、宮城県調整本部から塩釜地区消防事務組合消防本部において長野県隊と調整をとって活動にあたるよう指示された。

岡山県隊は多賀城消防署及び七ヶ浜消防署管内において、検索活動、道路啓開、消火活動等の指示を受け、指揮支援隊は同任務の指揮支援にあたった。写真4.6-21は、多賀城市における現場指揮本部でのミーティングの様子である。

写真4.6-21　現場指揮本部（多賀城市中央雨水ポンプ場）でのミーティング[1)]

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月

㈶ 名取市（宮城県）[1)]

広島市消防局が平成23年3月12日から4月15日まで指揮支援隊として派遣され、名取市における長野県隊、富山県隊、広島県隊への指揮支援活動を主な任務とした。

指揮支援隊は、名取市消防本部の警防課へ常駐して連絡情報収集、関係機関との連絡調整等を行った（写真4.6-22）。

広島県隊、長野県隊及び富山県隊の活動状況や被災地の情報等を名取市消防本部へ報告するとともに、広島市消防局へ設置された広島県隊の後方支援本部への情報提供を行った。

また、宮城県調整本部及び名取市消防本部と協議、調整しながら、後方支援本部を通じて、広島県及び広島県内消防本部と広島県隊の派遣に係る協議、調整等を行った。

写真4.6-22　指揮支援隊が詰めていた名取市消防本部内部[1)]

㈷ 亘理町・山元町（宮城県）[1)]

山元町にて、平成23年3月14日から3月21日まで、北九州市消防局及び福岡市消防局が指揮支援隊として活動した。また、平成23年3月14日から4月23日まで、福島県から転戦してきた神戸市消防局が指揮支援隊として活動した。

指揮支援隊（北九州市、福岡市）が2隊で活動したため、亘理地区行政事務組合消防本部緊急消防援助隊指揮支援本部（以下「指揮支援本部」という。）と現地指揮所に午前、午後の交互に活動を実施した。また、指揮支援本部と現地指揮所との間に無線中継所を設置し、山元町役場の災害対策本部（消防・警察詰め所）に隊員1人を派遣した。写真4.6-23に、亘理地区における緊急消防援助隊の指揮体制図を示す。

なお、亘理地区行政事務組合消防本部が地元のガソリンスタンドに依頼して、緊急車両専用の給油所を設置して燃料補給体制を確立したことにより、活動中の消防車両への燃料補給は円滑に行われた。

4月12日に福島県から転戦してきた神戸市指揮支援隊は、山元町で、今後の活動の調整及び指揮支援業務を開始した。翌13日、消防庁、指揮支援部隊長、亘理地区行政事務組合消防本部消防長、愛知・兵庫県隊長とともに、今後の亘理地区の緊急消防援助隊の部隊配置計画の調整を行い、山元分署に指揮所を開設し、ブロック指揮隊は各地域の活動指揮を行う体制に移行した。

神戸市指揮支援隊は、山元町役場の災害対策本部において、兵庫県隊の活動状況の集約と自衛隊・警察等の連携・情報共有などの支援業務を行った。

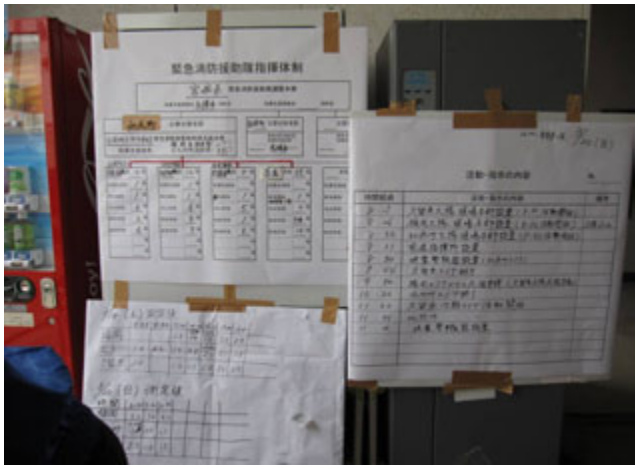


写真4.6-23　緊急消防援助隊指揮体制及び活動状況等時系列の掲示[1)]

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月

(2) 消火活動

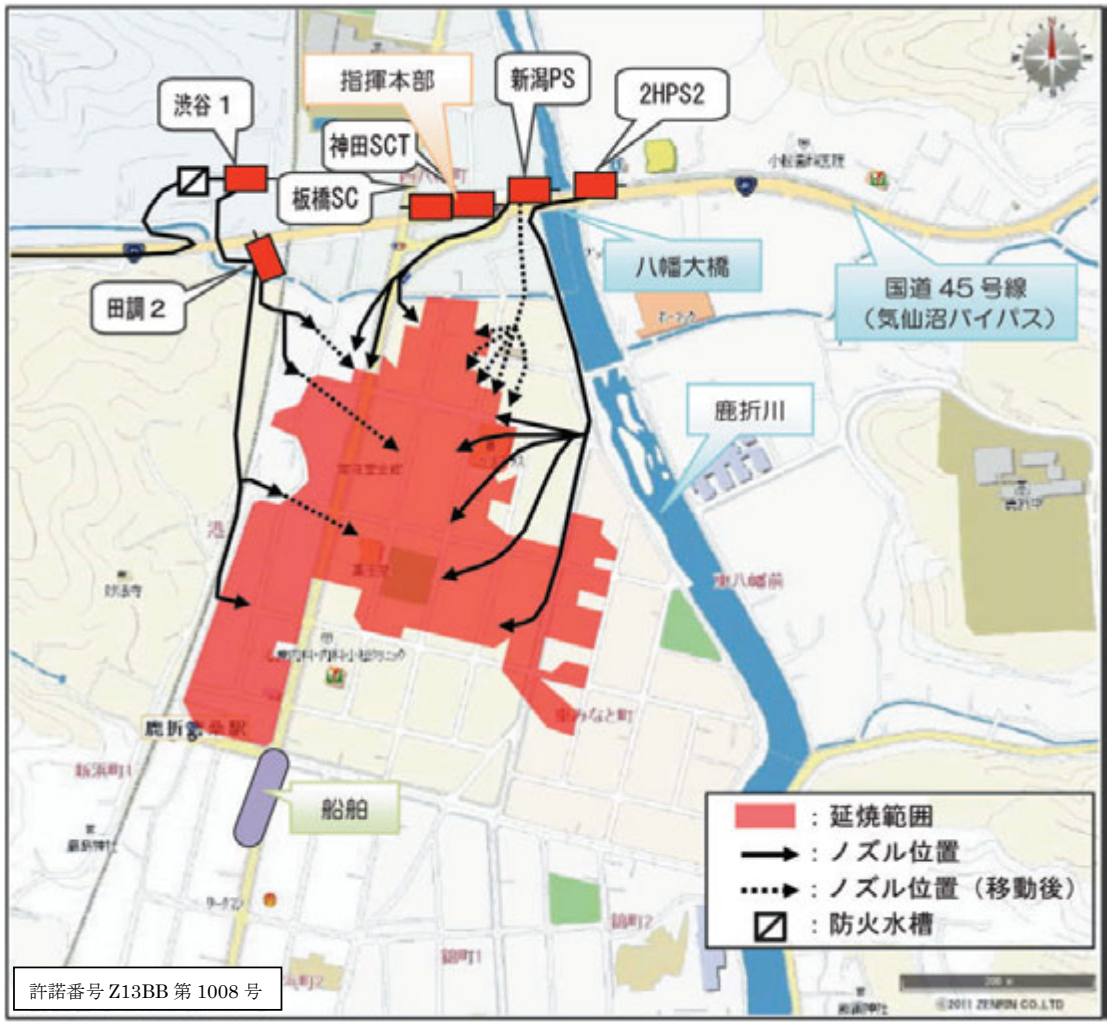
ア 気仙沼市・南三陸町（宮城県）[1)2)]

平成23年3月11日から4月28日まで、緊急消防援助隊が派遣された。都府県隊として東京都隊、新潟県隊、山梨県隊、香川県隊、京都府隊、鳥取県隊、兵庫県隊、秋田県隊、山形県隊が活動した。兵庫県隊は、石巻市総合運動公園を拠点に南三陸町で活動した。

気仙沼市内では鹿折（ししおり）地区をはじめ内の脇地区、大浦地区、大島地区等で大規模な火災が発生した。鹿折地区の消火活動には東京都隊、新潟県隊が対応したが、それ以外の地区では津波による浸水等のため消火活動が実施できなかった。

鹿折地区の火災対応は、以下のとおりである。東京都隊長は、3月12日9時00分に気仙沼市災害対策本部に到着し、市長より鹿折地区での大規模火災対応を下命された。写真4.6-24は12日、鹿折高架橋に集結した緊急消防援助隊の様子である。東京都隊長は現場指揮本部を設置し、東京都隊及び新潟県隊が、翌13日まで東京都隊長指揮の下、本火災の延焼阻止にあたった（写真4.6-25）。水利は、鹿折川からスーパーポンパー*1により吸水し、65mmホースを10本以上活用して送水し、東西で挟む形で10口以上で放水した。付近は、がれきが散乱しており、ホースカー*2は使用不能であった。また、消防防災ヘリコプターによる空中消火を13回実施し延べ14,300ℓを散水した。図4.6-19に鹿折地区における東京都隊等の消火活動状況を示す。

図4.6-19 鹿折（ししおり）地区における東京都隊等の消火活動状況[2)*3]



1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
2）東京消防庁　東日本大震災における活動の記録　平成24年3月
*1 遠距離大量送水装備（スーパーポンパー）は、海や河川等の大量の水利から約2km先まで大量送水できる車両である。
*2 ホースカーは、10本以上のホースを折り畳んで積んでいる車両で火災現場から水利まで遠い場合に使用する。
*3 PS：遠距離大量送水装備（スーパーポンパー）、2HPS2：遠距離大量送水車　ホース延長車、SC,SCT：指揮統制車

なお、鹿折地区の市街地火災における火災の状況を第3章「3.3.2 2（8）宮城県気仙沼市鹿折地区の市街地火災」に、常備消防による消防活動を第4章「4.3.3 3（10）＜鹿折街区火災＞」に、消防団による消防活動を第4章「4.4.3 3（2）宮城県の気仙沼市の消防団が常備消防、緊急消防援助隊と連携した消火活動の事例」に詳細を記述した。

写真4.6-24　3月12日朝、鹿折（ししおり）高架橋に集結した緊急消防援助隊[1]

写真4.6-25　鹿折（ししおり）地区におけるがれき上での消火活動状況[2]

イ　石巻市・女川町・東松島市（宮城県）[2]

平成23年3月11日から5月10日まで、緊急消防援助隊が派遣された。道県隊として新潟県隊、北海道隊、山口県隊、和歌山県隊、鹿児島県隊が活動した。

石巻市では門脇町で大規模な市街地火災があり、新潟県隊が消火活動にあたった。和歌山県隊は、石巻市重吉町の工場火災に対応したほか、主な活動としては女川町及び石巻市において検索活動に従事した。北海道隊も石巻市重吉町の火災対応支援のほかは、主に石巻市での検索救助活動を行った。山口県隊及び鹿児島県隊は主に石巻市での検索救助活動を行った。

以下に石巻市における火災への対応事例を示す。

(ア)　石巻市門脇町を中心とした建物火災[2)3)]

3月11日の津波到来後に発生した石巻市門脇町での市街地火災（写真4.6-26）では、3月12日から新潟県隊が地元消防吏員及び消防団員と協力して消火活動及び延焼阻止活動を実施した。建物等延焼中の当該地区は津波により冠水し、車両による出動は不可能であった。このため、救命ボート等を使用し、人員及び可搬式ポンプ等の資機材を搬送した。これにより、すべての隊員が現場に到着するまでに半日を要した。

写真4.6-26　石巻市門脇町付近の火災の状況（3月11日18時20分頃）[4]

(イ)　石巻市重吉町地内その他火災[2)3)]

3月15日に石巻市重吉町の製鉄工場の鉄くず置き場から出火、延焼拡大した。

和歌山県隊が出動し、地元消防本部と協力して消火活動を実施した。工場火災は鎮火までに長時間を要すると判断されたため、一旦は和歌山県隊内での要員交代準備を行ったが、遠距離送水システムによる放水体制を確立している新潟県隊と交代して消火活動及び延焼阻止活動を実施した。また、北海道隊による火災対応支援もあった。

(ウ)　石巻市築山一丁目建物火災[2)3)]

4月6日、延焼中の木造建物及び車両に対し、新

1）気仙沼・本吉地域広域行政事務組合消防本部　東日本大震災消防活動の記録　平成24年9月
http://www.km-fire.jp/images_higashi/higashikatudou.pdf（平成25年1月21日参照）
2）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
3）新潟県消防長会　東日本大震災緊急消防援助隊　新潟県隊活動記録　平成24年3月
4）石巻地区広域行政事務組合消防本部

潟県隊は、地元消防本部と協力しタンク水による消火活動及び延焼阻止活動を実施した。

㈾　共同住宅でのガス漏れ対応[1)]

石巻市清水町二丁目地内の共同住宅でガス漏れが発生し、新潟県隊はLPGボンベの元栓の閉鎖、ガスの安全な拡散及び住民の避難誘導を実施した。

ウ　塩竈市・七ヶ浜町・多賀城市（宮城県）[2)3)]

平成23年3月12日から4月5日まで、緊急消防援助隊が派遣された。県隊として岡山県隊、長野県隊、兵庫県隊、徳島県隊が活動した。

石油コンビナート火災に対する活動の詳細は、「4.7 石油コンビナート災害に対する活動」に示す。

また、岡山県隊が石油コンビナート火災現場へ出動途上で、津波で流されて1ヶ所に集積していた複数の車両から火の手が上がっているのを発見した。この火災には、岡山県指揮隊及び消火部隊のうち一部（5隊）が出動し消火活動を実施した（写真4.6-27）。

写真4.6-27　車両火災の状況（多賀城市、岡山県隊）[2)]

エ　仙台市（宮城県）[2)4)]

平成23年3月11日から3月21日まで、緊急消防援助隊が派遣された。県隊として、神奈川県隊、島根県隊、三重県隊、熊本県隊が活動した。

仙台市宮城野区では、平成23年3月11日（推定）に石油コンビナート区域において大規模な危険物漏えいが確認され、3月16日に神奈川県隊（2隊）が出動し、警戒活動を行った。また、3月17日に三重県隊（13隊）が出動し、泡消火薬剤投入活動を行った（写真4.6-28）。石油コンビナートにおける活動の詳細は、「4.7 石油コンビナート災害に対する活動」に示す。

写真4.6-28　油槽所での危険物漏えいに泡放射するために海水を給水する三重県隊員（平成23年3月16日・宮城県仙台市宮城野区）[2)]

また、3月11日に仙台港南側に位置する製鉄所の敷地内に保管中の鉄くずの山から火災が発生した。3月18日から熊本県隊は仙台市消防局と合同で消火活動を担当し（写真4.6-29）、遠距離送水システムによる水利の確保を行った。火災発生10日後の3月21日に鎮火を確認した。

写真4.6-29　JFE条鋼仙台製造所にて泡消火中の熊本県隊（平成23年3月20日・宮城県仙台市）[2)]

オ　岩沼市（宮城県）[5)]

緊急消防援助隊として山梨県隊が3月12日から3

1）新潟県消防長会　東日本大震災緊急消防援助隊　新潟県隊活動記録　平成24年3月
2）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
3）岡山市消防局　東北地方太平洋沖地震（緊援隊）岡山県隊活動状況報告（第40報）
4）仙台市消防局　東日本大震災における消防活動記録誌　平成24年7月
5）甲府地区消防本部　東日本大震災　緊急消防援助隊山梨県隊の活動記録

月14日まで、岩沼市民会館グランドを野営場所として支援活動を実施した。

3月12日の検索活動中に大型トラックが炎上しているのを発見、付近の建物に設置してあった消火器6本を使用して消火活動を行った（写真4.6-30）。

また、3月13日にはLPG充填施設からガス漏れを発見したため、調査を行ったところ、配管から漏えいしているのを確認し、指揮本部を訪れた関係者に対し、ガスの遮断指示を行った。

写真4.6-30　消火活動により消し止められた大型トラック（平成23年3月12日・宮城県岩沼市）[1)]

カ　亘理町・山元町（宮城県）[1)2)3)]

平成23年3月11日から4月23日まで、緊急消防援助隊が派遣された。指揮支援隊として北九州市消防局、福岡市消防局及び神戸市消防局が、県隊として愛知県隊、奈良県隊、兵庫県隊及び福岡県隊が活動した。

愛知県隊は、3月11日から4月22日までに、亘理町3件、山元町5件の火災で消火活動をした（写真4.6-31）。

奈良県隊は、3月14日から3月21日までに2件の建物火災で活動、また2件の警戒活動で出動した。

兵庫県隊は3月14日と3月23日から4月23日までの間、山元町で活動し亘理町・山元町の火災において10t水槽車を出動させ活動した。

写真4.6-31　愛知県隊による建物火災消火活動（亘理町）[1)]

(3)　検索・救助活動

ア　気仙沼市・南三陸町（宮城県）[1)]

主に東京都隊、新潟県隊、山形県隊、山梨県隊、香川県隊が気仙沼市で、京都府隊、兵庫県隊、鳥取県隊が南三陸町で検索救助活動を行った。

沿岸部においては、従来の地震による建物倒壊や火災現場における要救助者はほとんどなく、津波による溺死とみられる遺体を数多く確認した。

気仙沼市鹿折（ししおり）地区の検索救助活動では、移動すらままならない状況であったが、ローラー作戦により広範囲を検索し、孤立した家屋等から消防防災ヘリコプターによる救助を数多く実施した（写真4.6-32）。浸水により陸上部隊で対応できない場所については、東京都隊の水難救助隊が対応を行った。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
2）名古屋市消防局　東日本大震災派遣報告書　平成24年3月
3）福岡市消防局　東日本大震災　緊急消防援助隊　福岡県隊（福岡市隊）活動記録　平成24年3月

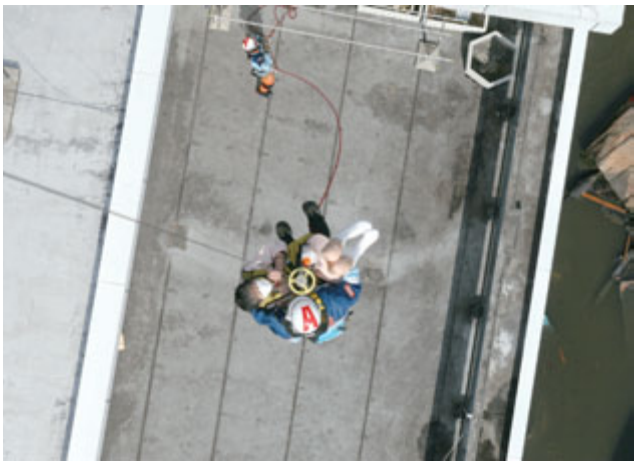


写真4.6-32　気仙沼市内のビル屋上からの救助（東京消防庁）[1)]

山梨県隊は、本吉町の海岸付近を中心に、ローラー作戦により、検索救助活動を行った（写真4.6-33）。

写真4.6-33　海岸で検索救助を行う山梨県隊（気仙沼市大谷地区）[1)]

京都府隊は3月13日6時から、津波による被害の大きい南三陸町の志津川地区で、壊滅状態となっていた病院や老人ホームでの検索活動を開始し、4月1日までの間、志津川地区のほか、戸倉地区及び歌津地区においても、大量のがれきを手作業で排除し、行方不明者の検索活動を継続した（写真4.6-34）。

写真4.6-35から写真4.6-37に鳥取県隊、香川県隊及び兵庫県隊の検索活動の様子を示す。

写真4.6-34　特別養護老人ホーム「慈恵園」付近で検索活動を行う京都府隊（南三陸町）[1)]

写真4.6-35　がれきの中で検索活動を行う鳥取県隊（南三陸町）[1)]

写真4.6-36　力を合わせてがれきを持ち上げる香川県隊（気仙沼市津谷地区）[1)]

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月

写真4.6-37　兵庫県隊の検索活動状況（南三陸町）[1)]

イ　石巻市・女川町・東松島市（宮城県）[1)2)]

主に北海道隊（写真4.6-38）、新潟県隊、山口県隊、鹿児島県隊が石巻市で、和歌山県隊が女川町で検索救助活動を行った。

写真4.6-38　がれきの中で負傷者を搬送する北海道隊救助隊（石巻市湊地区）[1)]

新潟県隊は、広範囲にわたり浸水している沿岸地域で、屋根の上や建物の中で助けを求める住民など多数の要救助者をボートやヘリコプターにより救助した。また、津波により建物が押し流された地区では、浸水箇所で行方不明者の捜索活動を行った（写真4.6-39）。

発災当初の第1次隊は要救助者の救出活動、第2次隊は救出活動と併せて検索活動、第3次隊以降については捜索活動を実施した。

写真4.6-39　浸水地区における救助活動（石巻市中浦地区、新潟県隊）[1)]

和歌山県隊は女川町で、倒壊、流出した建物及びがれき化した被災箇所に対して人海戦術で検索救助活動を実施した（写真4.6-40）。

また、3月17日には、新潟市消防局指揮支援隊から、石巻市釜谷地区において、小学生が多数流された現場への出動指示を受け、指揮隊、救助部隊2隊が検索救助活動に向かったが、発見には至らなかった。

写真4.6-40　津波被害を受けた女川町内の検索救助活動（平成23年3月16日12時34分、和歌山県隊）[1)]

同日、山口県隊は2隊に分かれて牡鹿半島と雄勝地区を検索した。周南指揮隊と周南救助隊は雄勝地区を検索し、男性1体の遺体を収容した。県隊長及び他の活動隊は牡鹿半島の小網倉浜地区及び小渕地区を検索し、小網倉浜地区で男性1体の遺体を収容した（写真4.6-41）。

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
2）新潟県消防長会　東日本大震災緊急消防援助隊　新潟県隊活動記録　平成24年3月

3月18日は、山口県隊は2隊に分かれて石巻市内と雄勝地区を検索した。周南指揮隊と周南救助隊は17日に続いて雄勝地区を検索し、女性1体の遺体を収容した。県隊長及び他の活動隊は石巻市街地の中里地区を検索した。

3月19日は、山口県全隊で石巻市街地の水明地区を検索した。

写真4.6-41　小渕地区の検索活動（石巻市、山口県隊）[1)]

鹿児島県隊は、3月18日に石巻市中里地区にて行方不明者の捜索、救助活動を行った。3月19日は石巻市水明地区、貞山地区にて行方不明者の捜索、救助活動、遺体の収容をした。3月20日は石巻市釜谷地区、川北地区にて行方不明者の捜索・救助活動を実施した（写真4.6-42）。

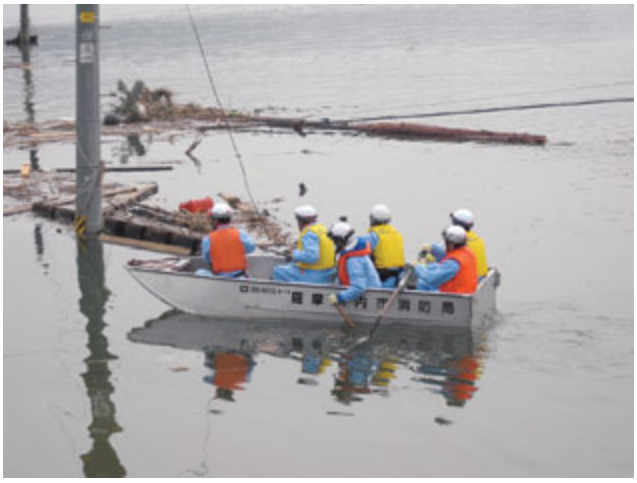


写真4.6-42　舟艇により水没している町を捜索する隊員（石巻市大川中学校付近、鹿児島県隊）[1)]

〈発災後96時間ぶりの救助[2)]〉

石巻市門脇町の民家で発災後96時間ぶりに25歳の男性が救助された。

3月15日13時27分に、石巻市門脇町の寺に出場指令があり新潟県隊救助隊及び新潟県隊救急隊が駆け付けた。男性が救助を求めているとの内容であった。

現場に到着した救助隊及び救急隊とで協力し屋外へ搬送した。発災後96時間ぶりの救助であった。要救助者は、左足に釘の踏み抜きが4ヶ所、右足に2ヶ所、両足足底部から足背部にかけて腫脹（しゅちょう）し歩行不可能状態であった。「津波に流されたが何とか逃れ一晩中靴も履かず靴下一枚でさまよい歩き、寺にたどり着き救助を待っていた。」とのことである。

〈発災9日後の祖母と孫の救助[2)]〉

石巻市門脇町の被災現場で、80歳の女性と16歳の男性（祖母と孫）が発災9日後に救助された。

3月20日に「屋根の上で男性が助けを求めている」との出動指令を受け、新潟県隊救助隊及び救急隊、石巻地区広域行政事務組合消防本部救助隊が出動した。現場まで数百mの地点で、道路の冠水とがれきにより走行不可能となり、救急車を停車して徒歩で現場へ駆け付けた。現場には宮城県警が先着しており、「倒壊家屋の2階に女性1人と男性1人（祖母と孫）が取り残され、現在も家屋内にいる。」との情報を聴取した。

家屋は、木造2階建てで1階部分が全壊、2階部分も半壊していた。救助隊は警察と協力し、がれきを除去しながら家屋内に進入し、80歳の女性をバックボードに固定し屋外へ救出、その後、16歳の男性を抱きかかえて救出した。新潟県隊救急隊により宮城県警ヘリコプターのピックアップ場所まで搬送した。

ウ　塩竈市・七ヶ浜町・多賀城市（宮城県）[1)3)]

長野県隊（写真4.6-43）、岡山県隊（写真4.6-44）及び徳島県隊が検索救助活動を実施した。長野県隊は3月12日から多賀城市・七ヶ浜町にて行方不明者捜索活動を開始した。途中、3月13日及び14日に、

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
2）新潟県消防長会　東日本大震災緊急消防援助隊　新潟県隊活動記録　平成24年3月
3）岡山市消防局　東北地方太平洋沖地震（緊援隊）岡山県隊活動状況報告

余震による津波回避のため一時退避し隊員の安全を確保した。

3月17日には、長野県隊長指揮の下、徳島県隊救助部隊2隊、岡山県隊救助部隊1隊及び長野県隊救助部隊3隊が七ヶ浜町で検索活動を行った。

主に津波被害地域でゴムボート及びドライスーツを使用して検索活動を実施した。

写真4.6-43　多賀城市八幡地区で孤立住民の救出状況（長野県隊）[1)]

写真4.6-44　用水に水没した多数の乗用車を検索（多賀城市、岡山県隊）[1)]

エ　仙台市（宮城県）[1)]

平成23年3月11日から3月21日まで、緊急消防援助隊が派遣された。神奈川県隊、島根県隊、三重県隊、熊本県隊が活動した。

神奈川県隊は活動エリアを2つ（宮城野区及び若林区）に分け、ローラー作戦で人命救助及び検索活動を実施し、3人（男性2人、女性1人）の要救助者の搬出及び78体の遺体を収容した。

三重県隊及び島根県隊も宮城野区及び若林区で人命救助及び検索活動を実施した。三重県隊はそれぞれの地区で7体及び10体の遺体を発見し、収容した。

熊本県隊は若林区で検索活動を行い、水路の中から1体の遺体を発見し、収容した（写真4.6-45）。

写真4.6-45　がれきの中で検索活動を行う熊本県隊（仙台市若林区）[1)]

オ　名取市（宮城県）[1)]

平成23年3月11日から4月15日まで、緊急消防援助隊が派遣された。県隊として広島県隊及び富山県隊が活動した。消火隊とともに名取市内の捜索・救助活動を実施した。長野県隊は3月22日、宮城県調整本部指揮支援部隊長（札幌市消防局）の依頼により名取市へ調査隊が出向し、翌23日より名取市にて捜索活動を開始した。

北釜地区は浸水水位が約1mと高く、活動が困難であった。そのため、仙台空港ターミナルではゴムボートを使用し、捜索・救助活動を行った。富山県隊はボート4隻に3人ずつの要救助者を乗せて、片道約1kmを往復し活動した（写真4.6-46）。

写真4.6-46　ボートによる浸水地の救助（名取市北釜地区、富山県隊）[1)]

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月

閖上（ゆりあげ）地区は一戸ずつ確認しながら検索救助活動を実施した。閖上小学校に800人程度が取り残されていた。救助に際しては、負傷者や高齢者など、より緊急度の高い方を優先して搬送を行った。

カ　岩沼市（宮城県）[1)2)]

緊急消防援助隊として山梨県隊が3月12日から3月14日まで、岩沼市民会館グランドを野営場所として支援活動を実施した。救助部隊は消火部隊と合同で3班に分かれ、地元消防本部及び消防団員とともに検索救助活動を実施した（写真4.6-47）。

浸水により徒歩で近づくことができない場所へは、積載のゴムボートを活用するとともに、救助用資機材による重量物の除去及び検索活動を実施した。

仙台空港南側の地区では、運輸関係の倉庫、工場等50棟に対し検索を行い、建物内に取り残されていた要救助者を安全な場所まで誘導した。

写真4.6-47　救助活動を行う山梨県隊員（宮城県岩沼市）[1)]

キ　亘理町・山元町（宮城県）[1)3)]

愛知県隊は、亘理消防本部の職員とチーム編成を行い、亘理消防本部管内の被災エリアの現地確認をして、検索場所を4地区に分割し、作戦会議上で各地区への部隊配置や舟艇等の水難救助系資機材の配分を行った。3月13日から4月22日までの救助者数は、生存者12人、死者144人であった。

奈良県隊は、山元町にて車両（水没車両含む。）内部やがれき内の救助活動を実施した（写真4.6-48）。

写真4.6-48　車両内部からの救助活動（山元町高瀬、奈良県隊）[1)]

兵庫県隊は、10t水槽車2隊及び救急隊2隊は山元分署にて常駐警備にあたり、他の隊は山元町にて捜索活動を実施した。

福岡県隊は主に、消火部隊とともに捜索活動に従事した。その中でも、救助活動に関しては、肩の高さまで水没したエリアにて、ドライスーツを着装し、捜索を行った。また、河川に水没転覆した車両内に閉じこめられていた要救助者を発見し、大型油圧救助装置等を使用して、車外へ救出した事案が2件あった（死亡を確認。）。

(4)　救急活動

ア　気仙沼市・南三陸町（宮城県）[1)4)]

秋田県隊は、日中、南三陸町総合体育館ベイサイドアリーナと町立歌津中学校に、夜間は、ベイサイドアリーナに部隊配備をして、南三陸町内の救急事案に対応した。

山形県隊は、急病や負傷等の通常の救急出動を行った。

東京都隊は、東京DMAT（写真4.6-49）と連携・同行してトリアージや医療機関での支援活動を行った。東京DMATが緊急消防援助隊に帯同しての都外派遣は今回が初めてであり、東京DMAT連携隊とともに12隊が派遣された。気仙沼市は、津波に

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
2）甲府地区消防本部　東日本大震災　緊急消防援助隊山梨県隊の活動記録
3）名古屋市消防局　東日本大震災派遣報告書　平成24年3月
4）東京消防庁　東日本大震災における活動の記録　平成24年3月

よる被害が広範囲に及び、死者の多くは溺死であった。

本来、東京DMATは、大規模災害発生時に東京DMAT連携隊とともに災害現場に急行し、その場で医療処置等を行うことを目的としているが、今回は死傷者の数が極めて多いということもあり、以下に示すとおりトリアージや医療機関での支援活動が主な内容となった。

○ヘリコプターにより救出された避難者のトリアージ、応急処置、搬送順位決定
○火災現場における要救助者発見時の救助活動への医療支援
○気仙沼市立病院の医療支援
○消防隊員に対する24時間体制での医療提供体制確保
○避難所における傷病者のトリアージ
○医療機関における重症患者、妊産婦のヘリコプターによる広域搬送医療支援

これらの活動は、東京都指揮支援隊の統制のもと、現地に派遣された救急部員と連携して実施した。

東京DMATは、日本DMAT（厚生労働省）と異なり、DMAT連携隊とともに、緊急消防援助隊東京都隊長の下で活動した。

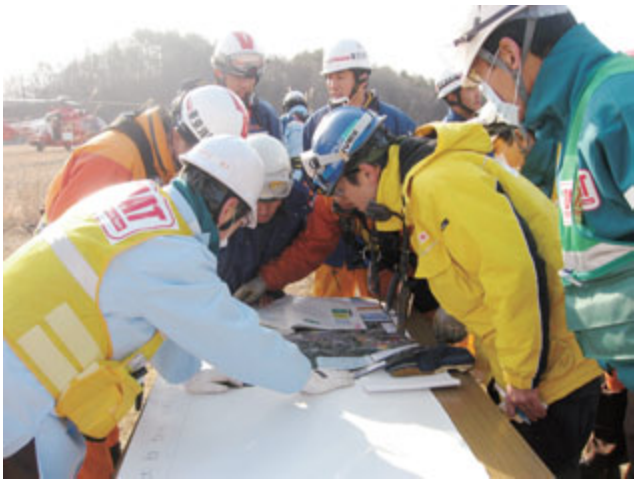


写真4.6-49　気仙沼市内の総合運動場における東京DMATの活動（東京消防庁）[1]

山梨県隊は、3月12日、13日は、岩沼消防署内で待機（仮眠）し、救急支援を行った。

14日以降は、転戦先の気仙沼・本吉地域広域行政事務組合気仙沼消防署及び本吉分署へ2隊の救急隊が支援を行った。

京都府隊は、3月13日から、南三陸町災害対策本部の要望により、避難所（ベイサイドアリーナ）に救急隊を配置し、避難所での急病患者等の搬送体制を確保した（写真4.6-50）。

4月2日以降は、避難所での救急需要が増加し、近隣医療機関への受入れができず、遠方の医療機関への長距離搬送が必要となり、災害対策本部から救急事案への対応について要望があったことから、救急体制の強化にシフトし、避難所となっているベイサイドアリーナと歌津中学校に救急隊（3隊）を24時間体制で待機させ、救急活動を実施した。

写真4.6-50　南三陸町総合体育館ベイサイドアリーナでの救急活動（京都府隊）[2]

イ　石巻市・女川町・東松島市（宮城県）[3][4]

北海道隊は、石巻地区広域行政事務組合消防本部管轄区域内において、24時間体制で救急出動要請に対応した（写真4.6-51）。

1）東京消防庁　東日本大震災における活動の記録　平成24年3月
2）京都市消防局　特集東日本大震災　活動記録　平成23年7月
3）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
4）新潟県消防長会　東日本大震災緊急消防援助隊　新潟県隊活動記録　平成24年3月

写真4.6-51　倒壊建物の中で活動する救急隊（中央地区、北海道隊）[1)]

指揮支援隊からの指示により、新潟県隊の救急部隊長（長岡市消防本部）が各道県（北海道、新潟県、和歌山県、山口県、鹿児島県）救急部隊の活動管理を行った。活動初期においては、電話が不通であったことから、各現場で活動中の石巻広域行政事務組合消防本部の職員からの救急要請による救急活動であった。

新潟県隊による救急搬送については、石巻赤十字病院がすべての患者を受け入れるとしたため、救急隊が搬送先の照会に苦慮することはなかった。また石巻赤十字病院で対応できない重篤患者の場合は、東北大学病院までの転院搬送を行った。

次の出動までのある程度の時間を推定でき、身体的精神的負担を軽減できることから、出動順を示したパネルを救急調整部隊エアテント前に掲示した（写真4.6-52）。

写真4.6-52　救急調整部隊エアテント前に掲示した出動順を示したパネル（石巻市、新潟県隊）[2)]

和歌山県隊救急部隊については、現地到着してから、すぐ災害対応することとなった。

救急出動は、新潟市消防局指揮支援隊からの指示により出動し、石巻地区広域行政事務組合消防本部の職員がナビゲーターとして救急車に同乗し、救急活動を行った。

一部の救急部隊は、長距離の走行や現地到着後すぐ活動開始することを考え4人編成の派遣としていた。

ウ　塩竈市・七ヶ浜町・多賀城市（宮城県）[1)]

長野県隊、岡山県隊及び徳島県隊の救急部隊は、塩釜地区消防事務組合消防本部の1ヶ所に待機して、要請に応じ救急搬送支援活動を実施した（写真4.6-53）。

写真4.6-53　塩釜消防署での救急活動支援（長野県隊）[1)]

1）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
2）新潟県消防長会　東日本大震災緊急消防援助隊　新潟県隊活動記録　平成24年3月

エ　仙台市（宮城県）[1)]

神奈川県、島根県、三重県、熊本県の4県から合計で延べ45隊の緊急消防援助隊救急部隊が活動した。緊急消防援助隊の救急車には、仙台市消防局の救急救命士が案内人として同乗し、4人体制で活動した。

緊急消防援助隊救急部隊の3月12日から3月21日までの派遣期間内における出場件数は222件、搬送人員は223人であった。

また、津波被災地域における検索活動等にもあたった。

オ　名取市（宮城県）[2)]

派遣先の名取市消防本部を応援するため、広島県隊は3月14日から3月29日までは救急隊2隊、3月30日から4月13日までは救急隊1隊を、名取市消防本部に常駐（昼間のみ）させ、日々の通常救急業務の応援を行った。なお、広島県隊の救急車の出動に際しては、名取市消防本部救急隊員1人が同乗し、救急現場への案内、収容先病院の手配等を行ったため、派遣された救急隊は被災地の地理に不案内であったが、迅速、的確な救急活動を行うことができた。なお、派遣期間中の救急隊の出動件数は86件で、搬送人員は87人であった。

また、富山県隊は3隊が12日7時10分から名取市消防本部救護所でトリアージを実施した。

13日も引き続き名取市消防本部救護所でトリアージを実施した。

カ　岩沼市（宮城県）[2)3)]

緊急消防援助隊として山梨県隊が3月12日9時45分から3月14日7時まで、岩沼市民会館グランドを野営場所として支援活動を実施した。救急部隊は岩沼消防署に待機して救急支援にあたった。3月12日及び13日の2日間での救急件数は33件、搬送人員は35人であった。

キ　亘理町・山元町（宮城県）[2)4)]

奈良県隊は、3月14日から3月21日までに、計65件の救急搬送を実施した。

福岡県隊は、救急部隊の活動については、9隊を3グループに分け昼間に救急活動を行う隊を4隊、夜間に救急活動を行う隊を3隊、捜索活動を実施する隊員を現場まで輸送する隊を2隊指定し、ローテーションを組んで活動を行った。出動場所は避難所が一番多く、その患者のすべてが発熱による救急車の要請であった。なかには、搬送病院の選定に苦慮し、最長で約50kmも離れた仙台市まで搬送した事案もあった。

愛知県隊は、亘理消防署に常駐する消火隊及び救急隊により、亘理消防署と連携して消防、救急活動に対応した（写真4.6-54）[4)]。

写真4.6-54　現地消防本部での救急出動態勢（愛知県隊）[2)]

1）仙台市消防局　東日本大震災における消防活動記録誌　平成24年7月
2）全国消防長会　東日本大震災活動記録誌　平成24年3月
3）甲府地区消防本部　東日本大震災　緊急消防援助隊山梨県隊の活動記録
4）名古屋市消防局　東日本大震災派遣報告書　平成24年3月